河内長野市文化財調査報告書第30輯

河内長野市埋蔵文化財調査報告書XV

小塩遺跡
高野街道
惣持寺跡
高向遺跡
西代藩陣屋跡

１９９９年３月

河内長野市教育委員会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、市域を高野街道を始めとする街道が通り、南河内における交通の要衝として発展してきた街です。このため、市内には金剛寺、観心寺などの寺社に代表される重要文化財や、多くの埋蔵文化財が残されています。

このような河内長野市も、大阪市内への通勤圏に位置しているため、近年になって住宅都市として急速に開発が進んでいます。

開発がもたらす影響は自然や文化財にとって大きなものです。とくに埋蔵文化財にとっては直接的に関わってくるものとして大きな問題であります。

開発を必要とすると同時に、失われていく遺跡に託された先人達のメッセージを現在の市民、さらには未来の市民へと伝えていかなければなりません。

本書は河内長野市に存在する遺跡の発掘調査の成果を収録しています。先人達が残したメッセージの一部でも理解していただければ幸いです。

発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深い御理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成11年３月

河内長野市教育委員会

教育長　中　尾　謙　二

例　　言

1．本書は平成10年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画・実施した市内遺跡、及び先年度に実施された市内遺跡の発掘調査報告書である。調査にかかる費用は、小塩遺跡ＯＳＯ93－１は南海商事株式会社、高向遺跡ＴＫＯ96－１は株式会社サトウ不動産、西代藩陣屋跡ＨＤＨ96－１・96－２・97－４・97－５・ＮＤＨ98－１・98－２は河内長野市、ＨＤＨ97－３は学校法人清教学園が負担した。
2．国庫補助事業の調査については、本市教育委員会教育部社会教育課主幹尾谷雅彦を主担とし、同課文化財保護係鳥羽正剛・太田宏明を担当者として、平成10年４月１日から着手し平成11年３月31日をもって終了した。内業調査は、市立ふれあい考古館館長中西和子の指導のもとに行った。
3．調査及び本書の執筆は鳥羽・太田が行い、編集は中村(東田)幸子が補佐した。文責については各報告文の文末に記載している。
4．ＴＫＯ96－１及びＨＤＨ96－２の調査については、本市教育委員会嘱託中尾智行(現大阪府文化財調査研究センター)が調査、執筆した。
5．ＨＤＨ97－３の調査については、大谷女子大学文学部教授中村浩氏の協力を得た。報告文については、大谷女子大学の調査報告に基づいて一部改編した。
6．発掘調査及び内業整理については、下記の方々の参加、協力を得た。(敬称略)
　阿部園子・池田武(現鳥取県大栄町教育委員会)・嘉悦真紀子・内田(川島)伸子・喜多順子・久保八重子・小森光・阪木しずこ・杉本祐子・高橋知佐子・田川富子・辻宏子・中村嘉彦・林和宏・藤井美佐子・藤原哲(市立ふれあい考古館)・枡本裕子・松尾和代・牟田口京子・山上美幸・山田(重野)真紀・大谷女子大学学生
7．発掘調査については、下記の方々の指導、協力を得た。記して感謝する。(敬称略)
　粟田薫(富田林市教育委員会)・株式会社島田組・写測エンジニアリング株式会社
　東穣二・黒田孝治・坂本喜一郎・田川治郎・田中初子・山田安代・山本貴一・山本真理子
8．写真撮影は、遺構については鳥羽・太田・中尾・中西、遺物については中西が行った。
9．本多藩陣屋跡(略号ＨＤＨ)の遺跡名は、平成10年度より西代藩陣屋跡(同ＮＤＨ)に変更した。
10．本調査の記録はスライドフィルムなどでも保管されており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1．本報告書に記載されている標高はＴＰを基準としている。
2．土色は新版標準土色帖による。
3．平面測量は国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基準に実施したものである。
4．図中の北は磁北である。
5．本書の遺構名は下記の略記号を用いた。
　ＳＡ…柵列　ＳＢ…掘立柱建物　Ｐ…柱穴　ＳＤ…溝　ＳＫ…土坑　ＳＰ…遺物出土ピット　ＳＵ…集石
6．遺構実測図の縮尺は、1/30・1/40・1/50・1/60・1/100・1/125・1/150・1/200である。
7．遺物実測図の縮尺は、土器1/4・石器2/3を基準としているが、遺物の状況により変えている。
8．縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器の断面は白抜き、須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器の断面は黒塗りである。
9．遺物番号と写真図版の番号は一致する。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
第１章　調査の状況 …… 1
第２章　調査の結果 …… 5
　第１節　小塩遺跡 …… 5
　　1　位置と環境 …… 5
　　2　遺構と遺物 …… 5
　　（1）　ＯＳＯ93－１ ……（鳥羽）…… 5
　　（2）　ＯＳＯ93－２ ……（鳥羽）…… 7
　　（3）　ＯＳＯ95－１ ……（鳥羽）…… 7
　　（4）　ＯＳＯ95－２ ……（鳥羽）…… 8
　　（5）　ＯＳＯ98－１ ……（鳥羽）…… 10
　　（6）　ＯＳＯ98－２ ……（太田）…… 12
　　3　まとめ ……（鳥羽・太田）…… 14
第２節　高野街道 …… 15
　　1　位置と環境 …… 15
　　2　遺構と遺物 …… 15
　　（1）　ＫＹＲ98－１ ……（太田）…… 15
　　3　まとめ ……（太田）…… 16
第３節　惣持寺跡 …… 17
　　1　位置と環境 …… 17
　　2　遺構と遺物 …… 17
　　（1）　ＳＧＴ98－１ ……（鳥羽）…… 17
　　3　まとめ ……（鳥羽）…… 19
第４節　高向遺跡 …… 20
　　1　位置と環境 …… 20
　　2　遺構と遺物 …… 20
　　（1）　ＴＫＯ95－５ ……（鳥羽・太田）…… 20

（2） ＴＫＯ96－１ ……（中尾）…… 24
3 まとめ ……（鳥羽・太田・中尾）…… 27
第５節 西代藩陣屋跡 …… 28
1 位置と環境 …… 28
2 遺構と遺物 …… 28
（1） ＨＤＨ96－１ ……（鳥羽）…… 28
（2） ＨＤＨ96－２ ……（中尾）…… 29
（3） ＨＤＨ97－２ ……（鳥羽）…… 31
（4） ＨＤＨ97－３ ……（鳥羽）…… 31
（5） ＨＤＨ97－４ ……（鳥羽）…… 33
（6） ＨＤＨ97－５ ……（鳥羽）…… 33
（7） ＮＤＨ98－１ ……（鳥羽）…… 35
（8） ＮＤＨ98－２ ……（鳥羽）…… 37
3 まとめ ……（鳥羽・中尾）…… 38

挿 図 目 次

第１図 河内長野市遺跡分布図(1/40000) …… 2

小塩遺跡

第２図 調査区位置図(1/4000) …… 5
第３図 ＯＳＯ93－１第１調査区遺構配置図(1/50) …… 5
第４図 ＯＳＯ93－１出土遺物実測図 …… 6
第５図 ＯＳＯ93－２遺構配置図(1/100)及び出土遺物実測図 …… 6
第６図 ＯＳＯ95－１遺構配置図(1/125) …… 7
第７図 ＯＳＯ95－２遺構配置図(1/125)及び出土遺物実測図 …… 9
第８図 ＯＳＯ95－２ＳＢ１遺構断面実測図(1/50) …… 9
第９図 ＯＳＯ98－１遺構配置図(1/100) …… 11
第10図 ＯＳＯ98－１出土遺物実測図 …… 11
第11図 ＯＳＯ98－２遺構配置図(1/40)及びＰ１遺構断面実測図(1/40) …… 13
第12図 ＯＳＯ98－２出土遺物実測図 …… 13

高野街道

第13図 調査区位置図(1/5000) …… 15
第14図 ＫＹＲ98－１遺構配置図(1/60) …… 15
第15図 ＫＹＲ98－１出土遺物実測図 …… 16

惣持寺跡

第16図 調査区位置図(1/5000) …… 17

第17図　ＳＧＴ98－１遺構配置図(1/60) …… 17
第18図　ＳＧＴ98－１出土遺物実測図 …… 18

高向遺跡

第19図　調査区位置図(1/5000) …… 20
第20図　ＴＫＯ95－５第１調査区出土遺物実測図 …… 20
第21図　ＴＫＯ95－５第２調査区遺構配置図(1/150) …… 21
第22図　ＴＫＯ95－５第２調査区出土遺物実測図 …… 22
第23図　ＴＫＯ96－１遺構配置図(1/150) …… 25
第24図　ＴＫＯ96－１出土遺物実測図 …… 27

西代藩陣屋跡

第25図　調査区位置図(1/4000) …… 28
第26図　ＨＤＨ96－１遺構配置図(1/60) …… 28
第27図　ＨＤＨ96－２遺構配置図(1/60)及びＳＵ１遺構断面実測図(1/30) …… 29
第28図　ＨＤＨ96－２出土遺物実測図 …… 30
第29図　ＨＤＨ97－２遺構配置図(1/60) …… 31
第30図　ＨＤＨ97－２出土遺物実測図 …… 31
第31図　ＨＤＨ97－３遺構配置図(1/200) …… 32
第32図　ＨＤＨ97－３出土遺物実測図 …… 32
第33図　ＨＤＨ97－４第１調査区遺構配置図(1/60) …… 33
第34図　ＨＤＨ97－５遺構配置図(1/150) …… 33
第35図　ＨＤＨ97－５出土遺物実測図 …… 34
第36図　ＮＤＨ98－１遺構配置図(1/60) …… 35
第37図　ＮＤＨ98－１出土遺物実測図 …… 36
第38図　ＮＤＨ98－２遺構配置図(1/100) …… 37

表　目　次

第１表　発掘届出件数月別一覧表 …… 1
第２表　主な民間開発発掘調査一覧表 …… 1
第３表　河内長野市遺跡地名表 …… 3

図　版　目　次

図版１　遺構　ＯＳＯ93－１第１調査区全景(西から) …… 5
図版２　遺構　ＯＳＯ93－２調査区全景(北から) …… 7
図版３　遺構　ＯＳＯ95－１調査区全景(東から) …… 7
図版４　遺構　ＯＳＯ95－２第１調査区全景(北から) …… 8

図版５　遺構　ＯＳＯ95－２第２調査区全景(東から) …… 8
図版６　遺構　ＯＳＯ98－１調査区全景(南西から) …… 10
図版７　遺構　ＯＳＯ98－２調査区全景(北西から) …… 12
図版８　遺構　ＫＹＲ98－１調査区全景(西から) …… 15
図版９　遺構　ＫＹＲ98－１土師質土器皿出土状況(東から) …… 16
図版10　遺構　ＳＧＴ98－１調査区全景(北から) …… 18
図版11　遺構　ＳＧＴ98－１ＳＰ３遺物出土状況(南から) …… 18
図版12　遺構　ＴＫＯ95－５第２調査区全景(北東から) …… 21
図版13　遺構　ＴＫＯ96－１第１調査区全景(西から) …… 24
図版14　遺構　ＴＫＯ96－１第２調査区全景(南西から) …… 26
図版15　遺構　ＴＫＯ96－１第３調査区全景(北西から) …… 26
図版16　遺構　ＨＤＨ96－１調査区全景(西から) …… 28
図版17　遺構　ＨＤＨ96－２調査区全景(東から) …… 29
図版18　遺構　ＨＤＨ97－２調査区全景(北から) …… 31
図版19　遺構　ＨＤＨ97－３調査区全景(東から) …… 33
図版20　遺構　ＨＤＨ97－４第１調査区全景(北から) …… 33
図版21　遺構　ＨＤＨ97－５第１調査区全景(西から) …… 34
図版22　遺構　ＨＤＨ97－５第２調査区全景(西から) …… 35
図版23　遺構　ＮＤＨ98－１調査区全景(西から) …… 36
図版24　遺構　ＮＤＨ98－２調査区全景(北から) …… 37
図版25　遺物　ＯＳＯ93－１(１)、ＯＳＯ93－２(２～８)、ＯＳＯ95－２(９～14・16～20)、ＯＳＯ98－１(21～35)
図版26　遺物　ＯＳＯ98－２(36～47)、ＫＹＲ98－１(48～51)、ＳＧＴ98－１(52～55・57～63・65・66)、ＴＫＯ95－５(79・80・84)
図版27　遺物　ＴＫＯ95－５(67～78・81～83・85～92・100)
図版28　遺物　ＴＫＯ95－５(93～99・101～103)、ＴＫＯ96－１(106～108・110～115)、ＨＤＨ96－２(116～125・127～129)
図版29　遺物　ＨＤＨ97－２(130)、ＨＤＨ97－３(131～136)、ＨＤＨ97－５(143・144)、ＮＤＨ98－１(146～152)
図版30　西代藩陣屋跡(ＨＤＨ96－２)出土近世遺物

第１章　調査の状況

平成10年の文化財保護法57条の２及び３の発掘届及び発掘通知の件数は、総数168件、そのうち発掘届145件、発掘通知23件である。また、今年も新しい遺跡が発見され、新規発見届及び通知は４件提出されている。

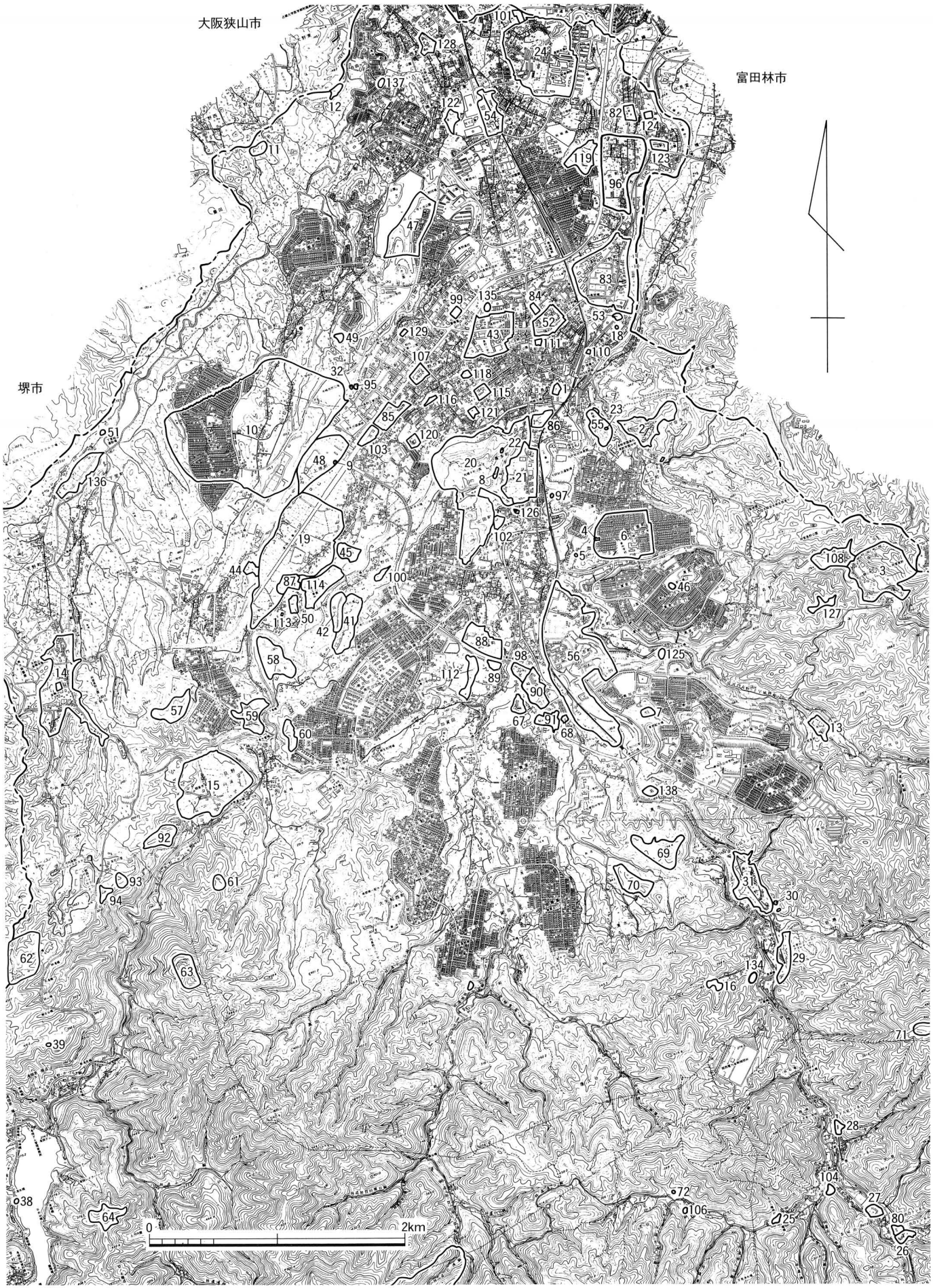
今年の発掘届に見られる原因者の状況は、大規模な開発よりも個人住宅の新築及び改築が大部分を占めている。

	平成９年度			平成10年度									総計
	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	
発掘届(57条の２)	9	10	10	13	9	29	18	6	9	14	6	12	145
発掘通知(57条の３)	0	2	1	0	2	1	3	0	7	3	1	3	23
発見届(57条の５)	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
発見通知(57条の６)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

第１表　発掘届出件数月別一覧表

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
本多町北遺跡	H9.12.22～H10.2.28	日本農薬㈱	3837.63㎡	店舗	原因者	中世の池・畦畔・ピットを検出
天野山金剛寺遺跡	H10.1.12～3.13	㈜天野山金剛寺	2641.56㎡	墓地造成	原因者	中世の溝・土坑・石組、近世の土坑・石組・墓を検出
高向神社遺跡	H10.1.29～1.30	㈜高向神社	3802.54㎡	社務所	原因者	落ち込み、近世の土師質土器・陶器の皿出土
千代田神社遺跡	H10.2.2	個人	335.00㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
西高野街道	H10.4.7	個人	1162.07㎡	宅地造成・分譲住宅	原因者	近世の石組を検出
三日市遺跡	H10.4.17	個人	192.50㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
千早口駅南遺跡	H10.5.8～5.12	個人	326.67㎡	専用住宅	国庫	遺構・遺物なし
惣持寺跡	H10.6.11～6.17	個人	518.48㎡	専用住宅	国庫	本書掲載
小塩遺跡	H10.6.15～7.6	個人	167.00㎡	専用住宅	国庫	本書掲載
三日市遺跡	H10.6.24	個人	472.24㎡	専用住宅	国庫	遺構・遺物なし
尾崎北遺跡	H10.7.1～8.4	村角建設㈱	1948.08㎡	分譲住宅	原因者	古墳時代の土坑・ピットを検出
高向遺跡	H10.7.2	個人	80.75㎡	工場	原因者	近世の陶磁器・瓦が出土
塩谷遺跡	H10.7.13	個人	100.00㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
塩谷遺跡	H10.8.3	個人	100.00㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
塩谷遺跡	H10.8.3	㈲セイワプランニング	100.05㎡	分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
喜多町遺跡	H10.8.19	㈱メディカルジャパン	3471.58㎡	病院	原因者	遺構・遺物なし
汐の宮町南遺跡	H10.8.28	個人	259.97㎡	共同住宅	原因者	弥生土器・奈良時代の土師器が出土
塩谷遺跡	H10.9.4	個人	100.00㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
小野塚	H10.9.21	個人	659.66㎡	専用住宅	国庫	遺構・遺物なし
小塩遺跡	H10.9.28～11.16	個人	279.22㎡	専用住宅	国庫	本書掲載
塩谷遺跡	H10.10.22	個人	100.00㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
三日市遺跡	H10.12.7	三井不動産㈱	3199.98㎡	宅地造成・分譲住宅	原因者	中世の土器が出土
高野街道	H10.12.21	個人	72.62㎡	専用住宅	国庫	本書掲載

第２表　主な民間開発発掘調査一覧表



第１図　河内長野市遺跡分布図(1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合寺	社寺	
3	観心寺	社寺	平安以降
4	大師山古墳	古墳	古墳（前期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落	弥生（後期）
7	興禅寺	社寺	
8	烏帽子形八幡神社	社寺	室町
9	塚穴古墳	古墳	古墳（後期）
10	長池窯跡群	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺	社寺	
14	金剛寺	社寺	平安以降
15	日野観音寺遺跡	社寺	中世
16	地蔵寺	社寺	
(17)	岩湧寺	社寺	平安以降
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	縄文・古墳～近世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	末広窯跡	生産	
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世
25	流谷八幡神社	社寺	
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千早口駅南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬薬師寺	墳墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳？	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
(34)	滝畑埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮の下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳？	古墳
42	宮山遺跡	集落	縄文・奈良
43	西代藩陣屋跡	城館 散布地	江戸 飛鳥～奈良
44	上原町墓地	墳墓	
45	惣持寺跡	散布地・社寺	縄文・奈良・鎌倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ケ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	旧石器～近世
49	住吉神社遺跡	社寺	
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	
52	膳所藩代官所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
55	河合寺城跡	城館	
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	汐の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	稲荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世
64	権現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	
(66)	葛城第15経塚	経塚	
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	庚申堂	社寺	

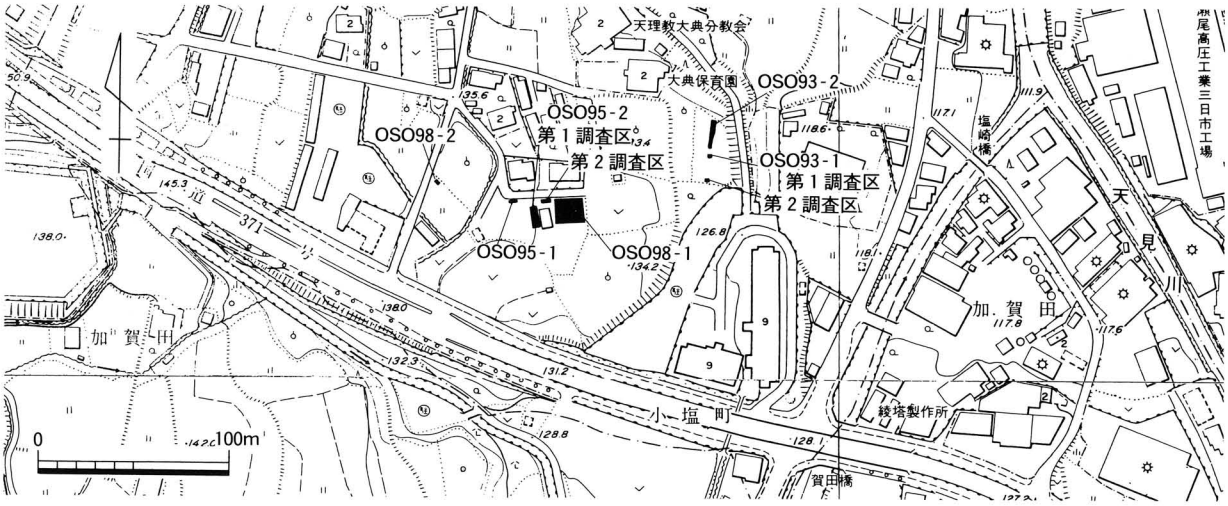
番号	文化財名称	種類	時代
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	
(73)	葛城第18経塚	経塚	
(74)	葛城第19経塚	経塚	
(75)	笹尾塞	城館	中世
(76)	大沢塞	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	
(78)	光滝寺	社寺	
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井淵神社遺跡	社寺	
(81)	川上神社遺跡	社寺	
82	千代田神社遺跡	社寺	
83	向野遺跡	集落・生産	縄文・平安～近世
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	集落	中世
86	大日寺遺跡	社寺	弥生・中世
87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
88	小塩遺跡	集落	縄文～中世
89	加塩遺跡	集落	古墳（後期）
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館？	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	集落	古墳
99	西之山町遺跡	散布地	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚	墳墓	
(105)	葛城第17経塚	経塚	
106	薬師堂跡	社寺	中世以降
107	野作遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
(109)	鳩原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	
111	山上講山古墳跡	古墳	
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	縄文・中世
118	錦町北遺跡	散布地	弥生・中世
119	市町西遺跡	集落	縄文・中世
120	栄町南遺跡	集落	中世
121	栄町東遺跡	散布地	弥生・中世
122	楠町東遺跡	散布地	弥生
123	汐の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
125	神ガ丘近世墓	墳墓	近世
126	増福寺	社寺	中世
127	三昧城遺跡	墳墓・城館	中世・近世
128	松林寺遺跡	社寺	近世
129	昭栄町遺跡	散布地	中世
*130	東高野街道	街道	平安以降
*131	西高野街道	街道	平安以降
*132	高野街道	街道	平安以降
133	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
134	地蔵寺東方遺跡	墳墓	鎌倉
135	本多町北遺跡	散布地	中世
136	下里町遺跡	散布地	古墳・中世
137	あかしあ台遺跡	散布地	近世
138	岩瀬北遺跡	集落	中世

（　）は地図範囲外　＊は街道につき地図上にプロットせず

第3表　河内長野市遺跡地名表

第２章　調査の結果

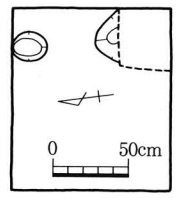
第１節　小塩遺跡



第２図　調査区位置図(1/4000)

１　位置と環境

当該遺跡は、天見川の西側、中位段丘上の小塩町地内に所在する、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。天見川の東側対岸には旧石器時代から近世にかけての三日市遺跡が位置し、南側には古墳時代後期の加塩遺跡や古墳時代・中世の西浦遺跡が近接している。遺跡は標高約130mに位置している。



第３図　ＯＳＯ93－１
第１調査区遺構配置図(1/50)

２　遺構と遺物

(１)　ＯＳＯ９３－１

本次調査は分譲住宅の建設に先立ち実施し、調査区は２カ所設定した。調査面積は第１、第２調査区とも約４㎡である。基本層序は、耕土(層厚0.05m)、床土(同0.05m)、10YR5/6黄褐色細砂(同0.08m)であった。

第１調査区でピットを検出したが、遺物は包含層からのみ出土した。第２調査区では遺構・遺物とも検出されなかった。

図版１　ＯＳＯ93－１第１調査区全景(西から)

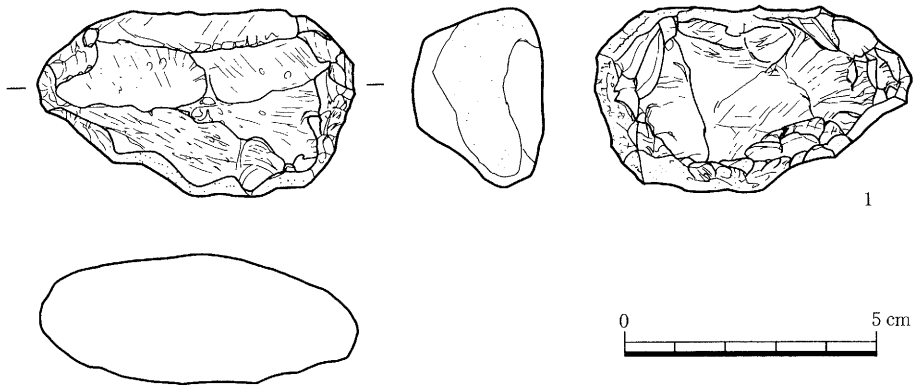
第１調査区

［包含層］

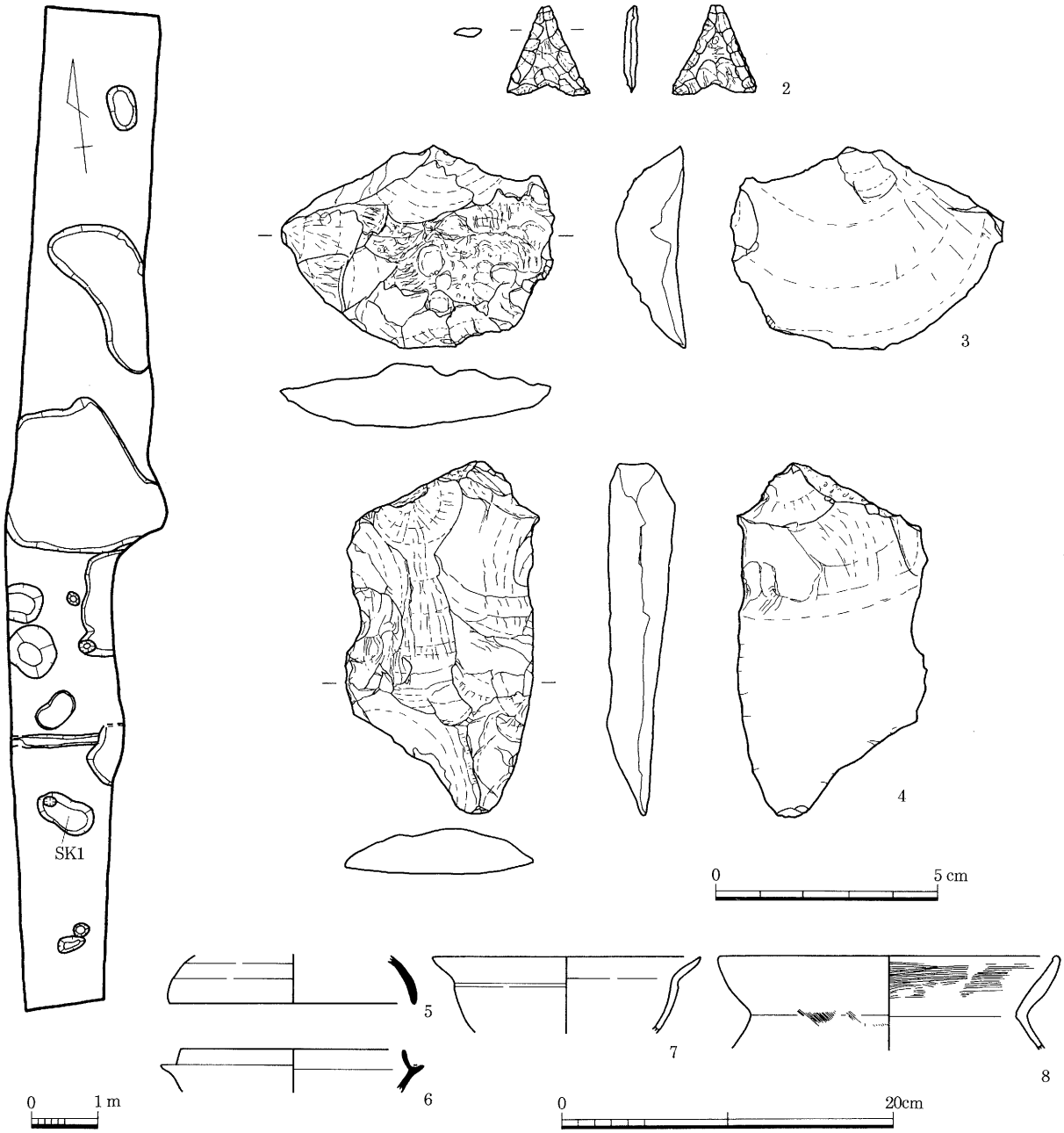
（第４図、図版25）

包含層からサヌカイトの叩き石（１）、土師器、須恵器、瓦器が出土した。

（鳥羽）



第４図　ＯＳＯ93－１出土遺物実測図



第５図　ＯＳＯ93－２遺構配置図(1/100)及び出土遺物実測図

（2）　ＯＳＯ93－２

本次調査地はOSO93－１の調査地の北側に所在する。調査は分譲住宅の建設に伴う事前調査として実施し、調査区は１カ所設定した。調査面積は約26.5㎡である。基本層序は、耕土（層厚0.31m）、床土（同0.04m）、7.5YR5/4にぶい褐色細砂（同0.2m）であった。

遺構は溝、土坑、ピットを検出した。遺物は主に古墳時代後期の土師器、須恵器が出土した。

図版２　ＯＳＯ93－２調査区全景（北から）

［ＳＫ１］（第５図、図版25）

ＳＫ１は調査区の南側に位置する。遺構の平面形は瓢形である。規模は長軸0.88m、短軸0.44m、深さ0.17mを測る。

遺物はサヌカイトの石鏃（２）、須恵器が出土した。

［包含層］（第５図、図版25）

包含層からサヌカイトの凸刃削器（３）・複刃削器（４）、土師器の鉢（７）・甕（８）、須恵器の坏蓋（５）・坏身（６）が出土した。　（鳥羽）

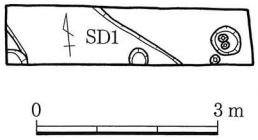
（3）　ＯＳＯ95－１

本次調査地はOSO93－２の調査地の西側に所在する。調査は個人住宅の建設に先立ち実施し、調査区は１カ所設定した。調査面積は約4.5㎡である。基本層序は、耕土（層厚0.35m）、旧耕土（同0.2m）、床土（同0.05m）、10YR4/6褐色粘土混じりシルト（同0.1m）であった。

遺構は溝、土坑、ピットを検出した。溝と包含層から遺物が出土した。

［ＳＤ１］

調査区の西半分を占める。南北端が調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は検出長１ｍ、検出幅1.5mを測る。



第６図　ＯＳＯ95－１
遺構配置図（1/125）

図版３　ＯＳＯ95－１調査区全景（東から）

遺物は土師器の皿・坏・甕、須恵器の坏蓋・坏身・甕、瓦質土器の練鉢が出土したが、細片のため実測できなかった。

［包含層］

包含層からサヌカイトの剝片、土師器の甕、須恵器の坏蓋・壺・甕が出土したが、細片のため実測できなかった。（鳥羽）

（4） ＯＳＯ95－２

本次調査地はOSO95－１の調査地の東側に所在する。調査は個人住宅の建設に伴う事前調査として実施し、調査区は２カ所設定した。調査面積は第１調査区が約39㎡、第２調査区が約８㎡である。基本層序は、第１、第２調査区ともに耕土(層厚0.6m)、床土(同0.1m)、10YR4/6褐色粘土混じりシルト(同0.1m)であった。

第１調査区では掘立柱建物、溝、土坑、ピットを検出し、主に古墳時代後期の土師器、須恵器が出土した。第２調査区では土坑、ピットを検出し、土坑から遺物が出土した。

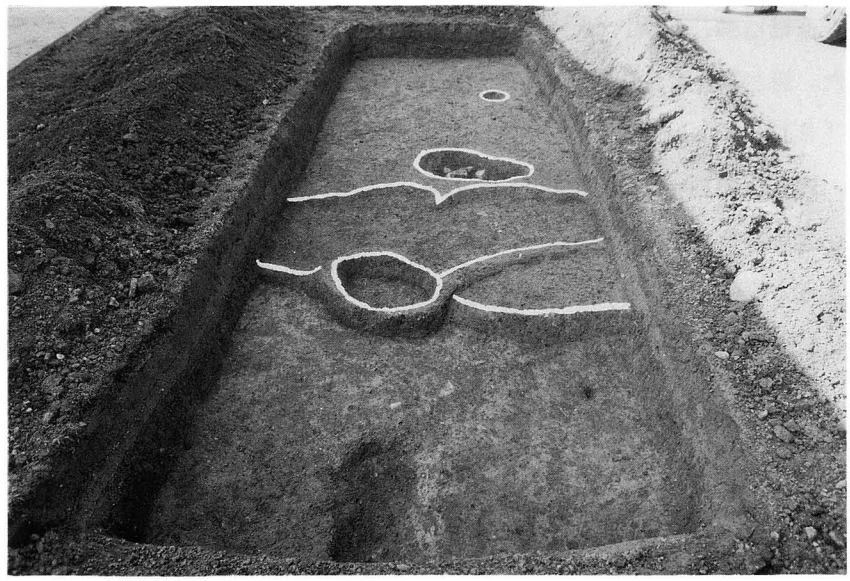
図版４　ＯＳＯ95－２第１調査区全景(北から)

第１調査区

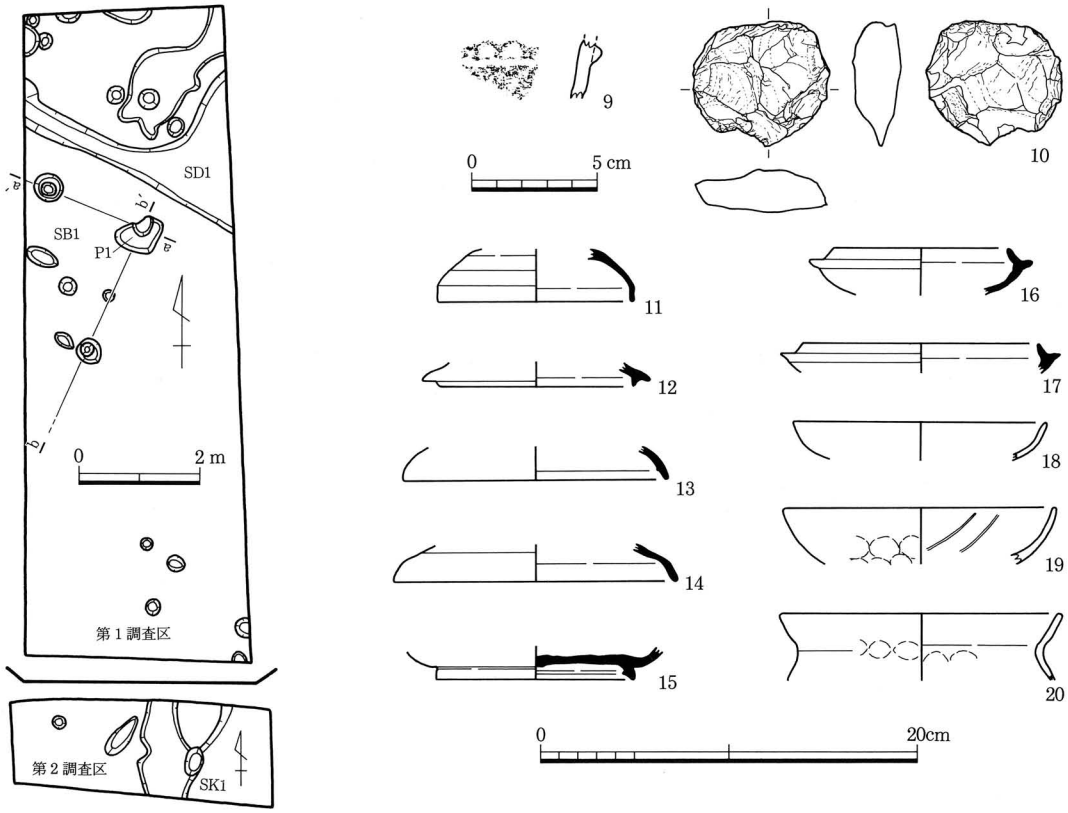
［ＳＢ１］(第８図)

ＳＢ１は調査区の西端に位置する。遺構の西側が調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は桁行１間以上(2.3m)×梁行１間以上(1.68m)を測る。柱穴の掘形の径0.4～0.7m・深さ0.06m、柱穴の径0.24～0.34m・深さ0.28～0.48mを測る。建物の軸方向はN－24°－Eを示す。

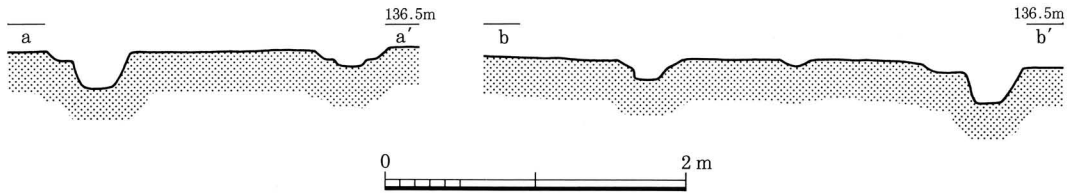
遺物はＰ１からサヌカイトの剝片、土師器の甕が出土したが、細片のため実測できなかった。



図版５　ＯＳＯ95－２第２調査区全景(東から)



第７図　ＯＳＯ95－２遺構配置図(1/125)及び出土遺物実測図



第８図　ＯＳＯ95－２ＳＢ１遺構断面実測図(1/50)

［ＳＤ１］(第７図、図版25)

ＳＤ１はＳＢ１の北側に位置する。遺構の東西端が調査区外に及ぶため詳細は不明であるが、ＳＢ１の梁行と平行する軸方向をもつことから、互いに何らかの規制をうけて構築されたと考えられる。規模は検出長3.9m、幅0.38～2.3m、東端の深さ0.31m、西端の深さ0.46mを測る。

遺物は縄文土器の鉢(９)、サヌカイトの剝片・石核(10)、土師器の皿・坏・甕、須恵器の坏蓋(12・13)、坏身(15～17)・甕、瓦器椀が出土した。

［包含層］

包含層から土師器の椀・甕、須恵器の坏蓋・甕、瓦器椀、瓦質土器の甕、須恵質土器の練鉢が出土したが、細片のため実測できなかった。

第２調査区

［ＳＫ１］(第７図、図版25)

ＳＫ１は調査区の東側に位置する。遺構の西端以外は調査区外に及ぶため詳細は不明である。検出し

た規模は南北の長さ1.6m、東西の長さ1.2m、深さ0.5mを測る。

遺物は土師器の坏(18・19)・甕(20)、須恵器の坏身、製塩土器、器種不明の土師質土器が出土した。

［包含層］(第７図、図版25)

包含層から土師器の埦・甕、須恵器の坏蓋(11・14)・甕、瓦器埦、瓦質土器の甕、須恵質土器の練鉢が出土した。　(鳥羽)

(５)　ＯＳＯ98－１

本次調査地はOSO95－2の調査地の東側に所在する。調査は個人住宅の建設に伴う事前調査として実施し、調査区は１カ所設定した。調査面積は215㎡である。基本層序は、耕土(層厚0.15m)、7.5YR5/6明褐色シルト(同0.1m)、床土(同0.08m)、10YR5/4にぶい黄褐色細砂(同0.25m)であった。

遺構は土坑、ピットを検出した。これらの遺構から縄文土器、古墳時代後期から奈良時代の土師器、須恵器が出土した。

［ＳＫ１］(第10図、図版25)

ＳＫ１は調査区の南端で検出された。遺構の平面形は円形を呈する。規模は径0.64m、深さ0.19mを測る。

遺物は器種不明の土師器、須恵器の坏身(34)が出土した。

［ＳＫ２］(第10図、図版25)

ＳＫ２はＳＫ１の北側３ｍに位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は長軸2.18m、短軸1.5m、深さ0.28mを測る。

遺物はサヌカイトの剝片、縄文土器、土師器の坏・甕、須恵器の坏蓋(32)が出土した。

［ＳＫ３］(第10図、図版25)

ＳＫ３はＳＫ２の北側1.6mに位置する。遺構の平面形は瓢形である。遺構の規模は長軸0.96m、短軸0.46m、深さ0.4mを測る。

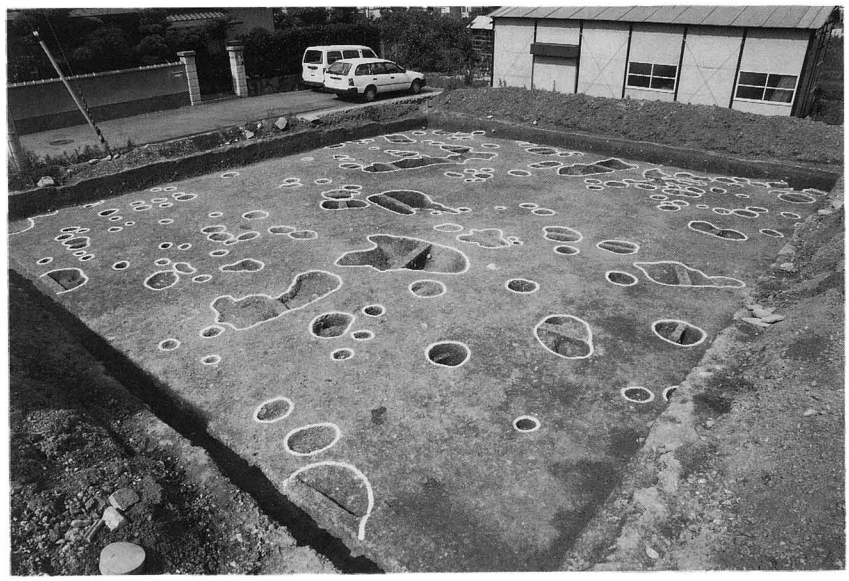
遺物は縄文土器の深鉢(21)が出土した。

［ＳＫ４］

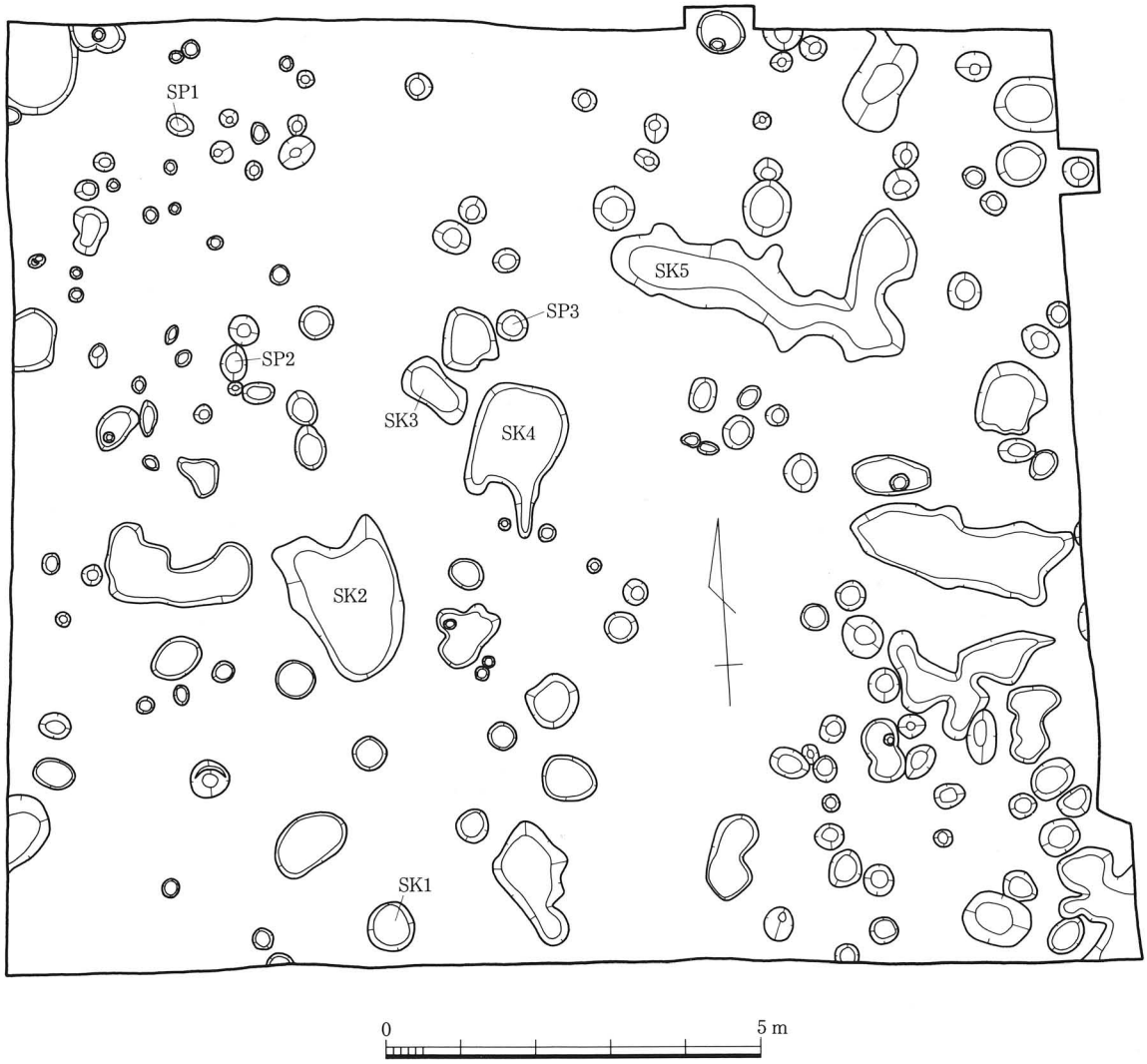
(第10図、図版25)

ＳＫ４は調査区の中央に位置する。遺構の平面形は不定形である。遺構の規模は長軸2.1m、短軸1.3m、深さ0.49mを測る。

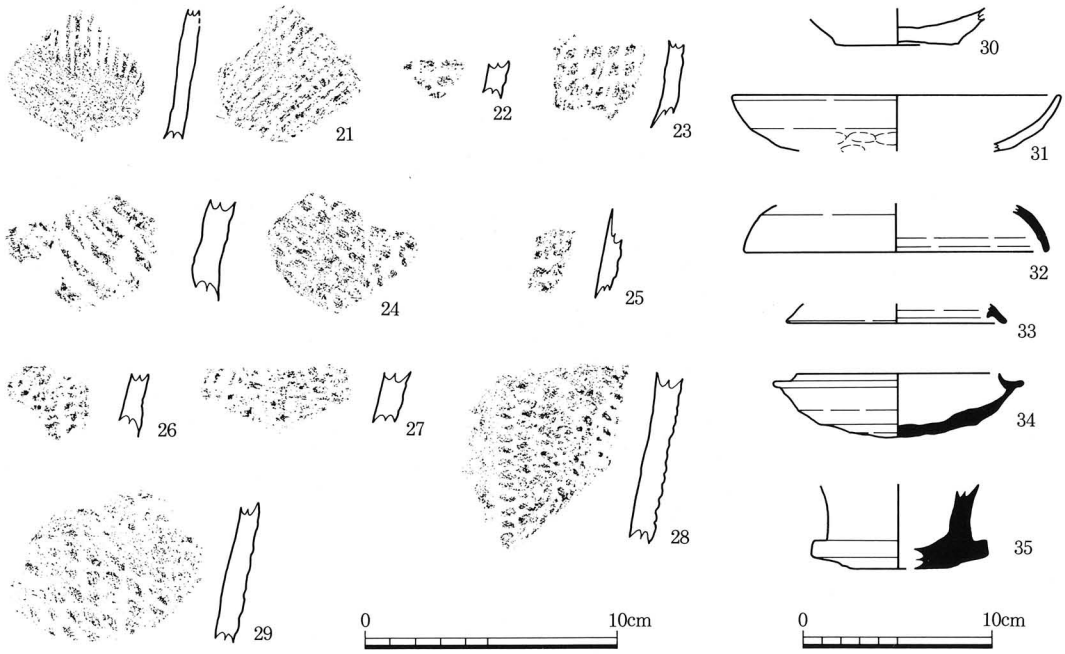
遺物は楕円押型文を有する縄文土器の深鉢(22・23)が出土した。



図版６　ＯＳＯ98－１調査区全景(南西から)



第９図　ＯＳＯ98－１遺構配置図(1/100)



第10図　ＯＳＯ98－１出土遺物実測図

［ＳＫ５］（第10図、図版25）

ＳＫ５はＳＫ４の北東1.9mに位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は長軸4.05m、短軸2.1m、深さ0.1～0.5mを測る。

遺物は楕円押型文を有する縄文土器の深鉢(24)が出土した。

［ＳＰ１］（第10図、図版25）

ＳＰ１は調査区の北西隅に位置する。遺構の平面形は楕円形である。規模は長径0.36m、短径0.29m、深さ0.32mを測る。

遺物は土師器の坏・埦(31)・甕、瓦質土器、鉄製品が出土した。

［ＳＰ２］（第10図、図版25）

ＳＰ２はＳＰ１の南2.8mに位置する。遺構の平面形は楕円形である。規模は長径0.5m、短径0.35m、深さ0.12mを測る。

遺物は須恵器の坏蓋(33)が出土した。

［ＳＰ３］

ＳＰ３はＳＰ２の東3.4mに位置する。遺構の平面形は円形である。遺構の規模は径0.42m、深さ0.17mを測る。

遺物は須恵器の坏蓋が出土したが、細片のため実測できなかった。

［包含層］（第10図、図版25）

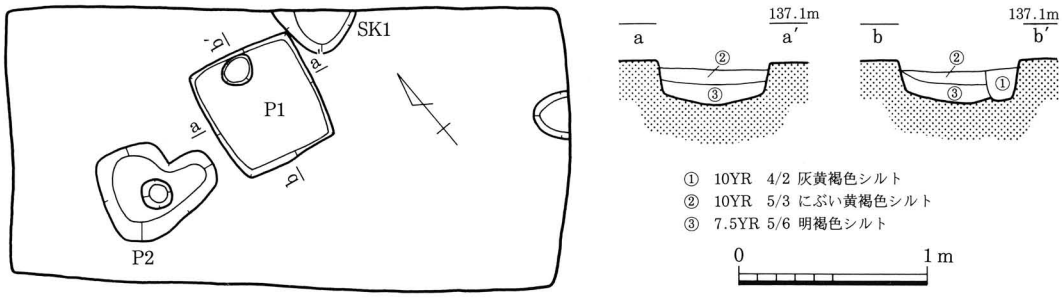
包含層から楕円押型文を有する縄文土器の深鉢(25～29)、弥生土器の壺(30)、古墳時代の土師器の皿・坏・埦・甑・土釜・壺・甕、須恵器の坏・ねり鉢(35)・平瓶・甕、製塩土器、黒色土器Ａ類埦、土師質土器の火鉢、瓦器埦が出土した。（鳥羽）

（６）　ＯＳＯ98－２

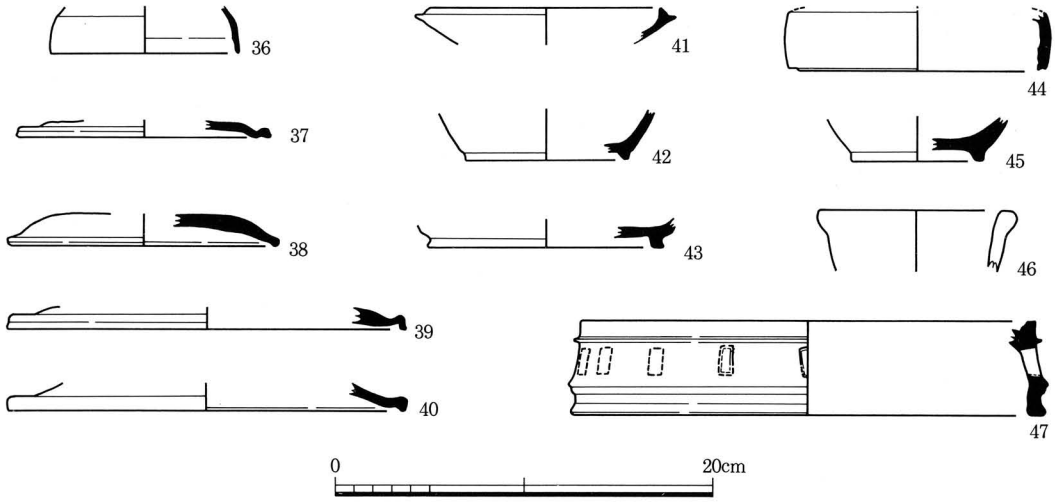
本次調査地は遺跡の南部に位置する。調査区の南側は1996年度に発掘調査が行われており（註１）、７世紀中葉から８世紀にかけての遺構・遺物が検出されている。

調査は個人住宅の浄化槽設置に伴う事前調査として実施し、調査区を１カ所設定した。調査面積は5.6㎡である。遺構面は地下0.4mで検出した。基本層序は盛土0.18m(5YR2/1黒褐色細砂)、旧耕土0.08m(10YR7/1灰白色細砂)、包含

図版７　ＯＳＯ98－２調査区全景(北西から)



第11図　ＯＳＯ98－２遺構配置図(1/40)及びＰ１遺構断面実測図(1/40)



第12図　ＯＳＯ98－２出土遺物実測図

層0.28m(10YR8/3浅黄橙色細砂)であった。

遺構は柱穴、土坑を検出した。

［Ｐ１］(第11・12図、図版26)

Ｐ１は柱穴の掘形が方形を呈しており、長辺0.65m、短辺0.5m、深さ0.19mを測る。柱穴は径0.14m、深さ0.23mを測る。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏蓋(38)・坏身が出土した。

［Ｐ２］

Ｐ２は柱穴の掘形が不定形であり、長軸0.62m、短軸0.48m、深さ0.12mを測る。柱穴は径0.15m、深さ0.15mを測る。Ｐ２は複数の柱穴が重複している可能性がある。

遺物は土師器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ１］(第12図、図版26)

遺構は全掘できなかったため、規模は不明である。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏身・短頸壺蓋(44)、製塩土器が出土した。

［包含層］(第12図、図版26)

包含層からは土師器の坏・甕、須恵器の坏蓋(36・37・39・40)・坏身(41～43)・高坏・壺(45)・甕・円面硯(47)、製塩土器(46)、土師質土器の土釜、瓦器椀、須恵質土器の練鉢、青磁、伊万里の碗が出土した。土師器及び須恵器が出土遺物の大部分を占めている。これらは若干７世紀代のものを含むものの、

大部分が中村編年のⅣ型式3段階から4段階に相当し、8世紀から9世紀にかけてのものである。また、須恵器円面硯は河内長野市域では初の出土例となる。（太田）

（註1）『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XIII』　河内長野市教育委員会　1997年3月

3　まとめ

調査の結果、既往調査（ＯＳＯ89－１、91－１、92－１、96－１～４）と同様、縄文時代早期の高山寺式とみられる押型文土器、古墳時代後期から奈良時代の土師器・須恵器を主に伴う遺構を検出した。

98－２調査区からは、掘立柱建物を構成するとみられる方形掘形を持つ柱穴を検出した。本遺跡で掘立柱建物の検出例はあるものの、方形掘形を持つものは初めてである。これらの遺構から出土した須恵器は中村編年のⅣ型式3段階に相当し8世紀のものである。遺構もこの時期のものであると考えられる。また、硯の出土等から当該調査区で検出した遺構が何らかの公的施設であった可能性が指摘できる。

他の調査区では具体的な遺構の性格を限定することはできなかったが、各時代の遺構の広がりを把握する資料が追加されたことは有意義であった。

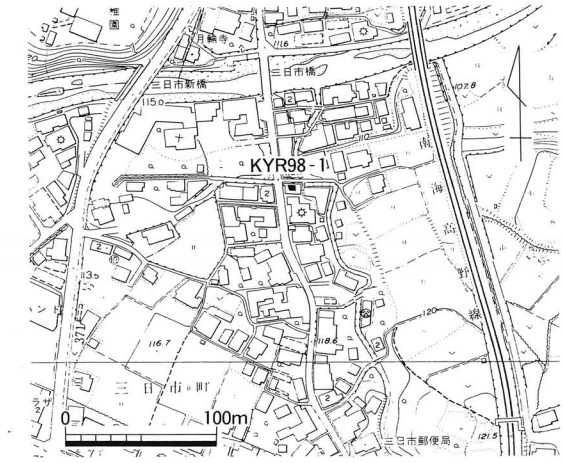
今後も開発の余地が十分にある区域であるので、小規模な調査でも特に資料の蓄積が欠かせない遺跡であることが再確認できた。（鳥羽・太田）

第２節　高野街道

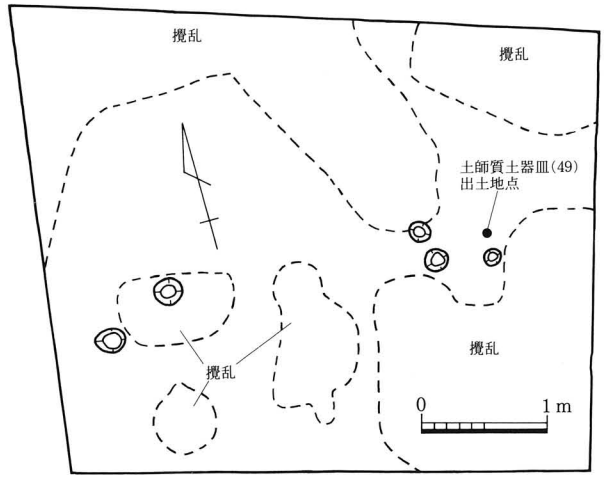
１　位置と環境

高野街道は、本市の本町付近で東高野街道と西高野街道が合流し、三日市を通り紀見峠に至る。江戸時代には高野参詣の本道として栄え、街道沿いには道標が多く残されている。三日市には宿駅が置かれていた。

当該調査地は三日市町地内に所在し、地形的には天見川東岸の低位段丘上に位置する。調査地は江戸時代には三日市宿の範囲に入り、南約0.5㎞には旧石器時代から近世にかけての集落跡である三日市遺跡が位置している。北西約１㎞には中世城郭である烏帽子形城跡が位置しており、北約１㎞には弥生時代から中世の遺構・遺物が検出された大日寺遺跡が位置している。



第13図　調査区位置図(1/5000)



第14図　ＫＹＲ98－１遺構配置図(1/60)

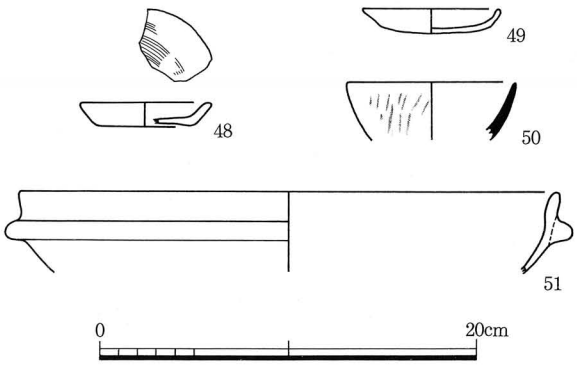
２　遺構と遺物

(１)　ＫＹＲ98－１

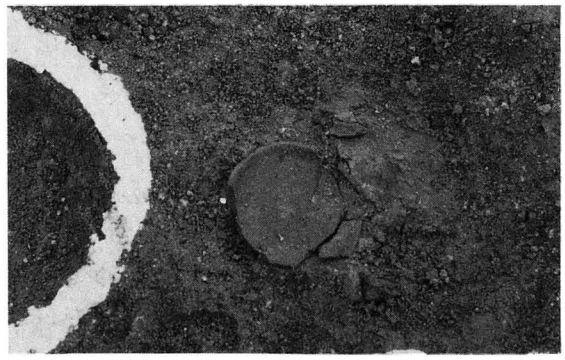
調査は個人住宅の建設に伴い実施し、調査区を１カ所設定した。調査面積は161㎡である。基本層序は、盛土5Y3/1オリーブ黒粗砂混じり細砂(層厚0.3m)、10YR6/8明黄褐色細砂(同0.1m)、2.5Y7/3浅黄色粗砂混じり細砂(同0.15m)であった。遺構面は深さ0.7mで検出した。

遺構面は比較的新しい時期の攪乱が著しかったが、柱穴を５カ所検出した。これらはいずれも径0.1～0.13m、深さ0.15～0.2mのも

図版８　ＫＹＲ98－１調査区全景(西から)



第15図　ＫＹＲ98－１出土遺物実測図



図版９　土師質土器皿出土状況（東から）

ので、埋土は５Y8/8黄色シルトであった。埋土から遺物は出土しなかった。

［包含層］（第15図、図版９・26）

遺構面に接地した状況で、土師質土器の皿(49)を検出した。包含層から、土師質土器の皿(48)・炮烙(51)・甕、瓦器埦、磁器の小碗(50)、軒平瓦が出土した。（太田）

3　まとめ

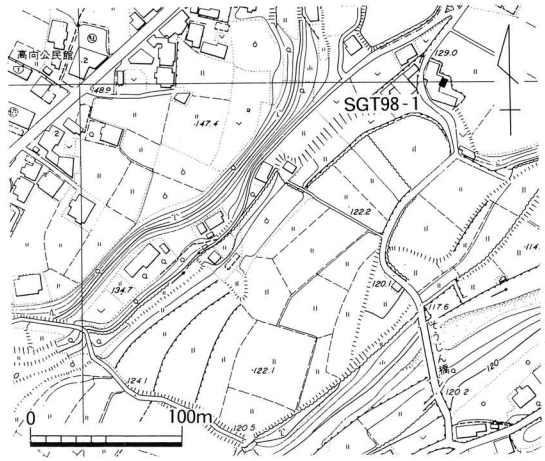
今回の調査は、調査区が狭小であったため、遺構の性格を十分に明らかにできなかった。しかし、高野街道で明確な遺構を検出することができた。遺構の時期に関しては出土した遺物から13世紀のものであることが考えられる。今後は周辺に存在する中世の遺跡との関連を明らかにしていく必要があろう。

（太田）

第３節　惣持寺跡

１　位置と環境

当該遺跡は高向地内に所在する。地理的には岩湧山系を水源とする石川の左岸、標高約128ｍの低位段丘上に位置する。西側0.15㎞には旧石器時代から中世の複合遺跡である高向遺跡、南側0.25㎞の石川の対岸には縄文時代後期の集落跡である宮山遺跡がある。



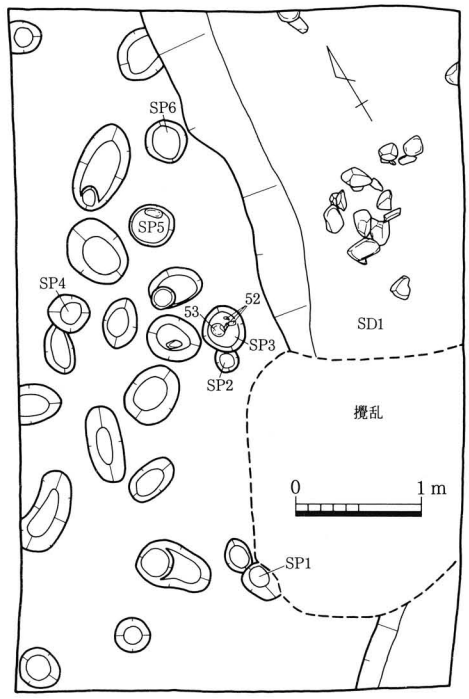
第16図　調査区位置図(1/5000)

２　遺構と遺物

（１）　ＳＧＴ98－１

本次調査は個人住宅の建設に先立ち実施し、調査区は１カ所設定した。調査面積は20㎡である。基本層序は、盛土(層厚0.2m)、耕土(同0.1m)、10YR7/8黄橙色細砂(同0.06m)、旧耕土(同0.05m)、10YR5/4にぶい黄褐色粗砂混じり礫(同0.15m)で、地山は7.5YR 6/6橙色礫混じり細砂であった。

遺構は溝、ピットを検出した。遺物はおもに溝から出土した。



第17図　ＳＧＴ98－１遺構配置図(1/60)

［ＳＤ１］(第18図、図版26)

ＳＤ１は調査区の東側に位置する。溝の両端と東側は調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は、検出長5.3m、検出幅2.4m、北側の深さ0.24m、南側の深さ0.29mを測る。

遺物は縄文土器の底部、土師器の高坏・埦・甕、須恵器の坏蓋・甕、土師質土器の皿(54～56)・坏(60・61)・土釜、瓦器の皿(58)・埦(62・63)、瓦質土器の皿(59)、須恵質土器の擂鉢、白磁の皿が出土した。

［ＳＰ１］

ＳＰ１は調査区の南側に位置する。遺構の平面形は東側が削平を受けているが不定形とみられる。規模は長軸0.34m、検出した短軸0.23m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＰ２］

ＳＰ２は調査区の中央に位置する。遺構の平面形は北側がＳＰ３に切られているが、ほぼ円形とみら

れる。規模は径0.18m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＰ３］

（第18図、図版11・26）

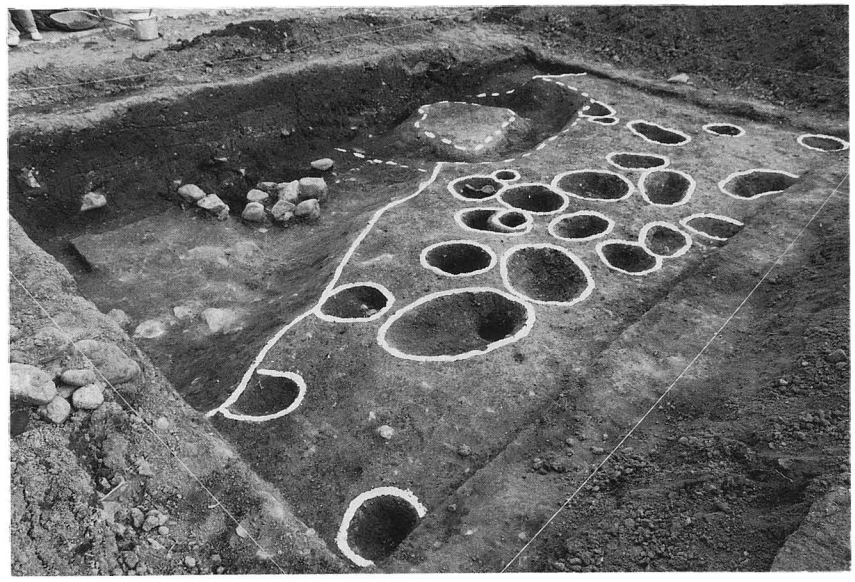
ＳＰ３はＳＰ２の北側に位置する。遺構の平面形は歪な円形である。規模は径0.35～0.38m、深さ0.08mを測る。

遺物は縄文土器の深鉢の体部(52)・底部(53)が出土した。

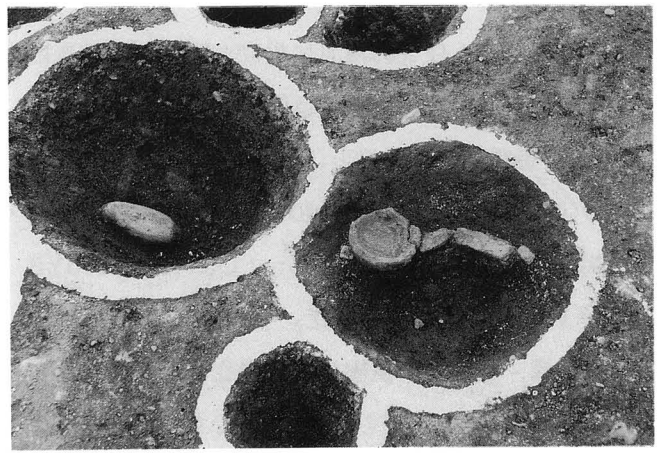
［ＳＰ４］

ＳＰ４は調査区の西側に位置する。遺構の平面形はやや歪な円形である。規模は径0.33～0.35m、深さ0.13mを測る。

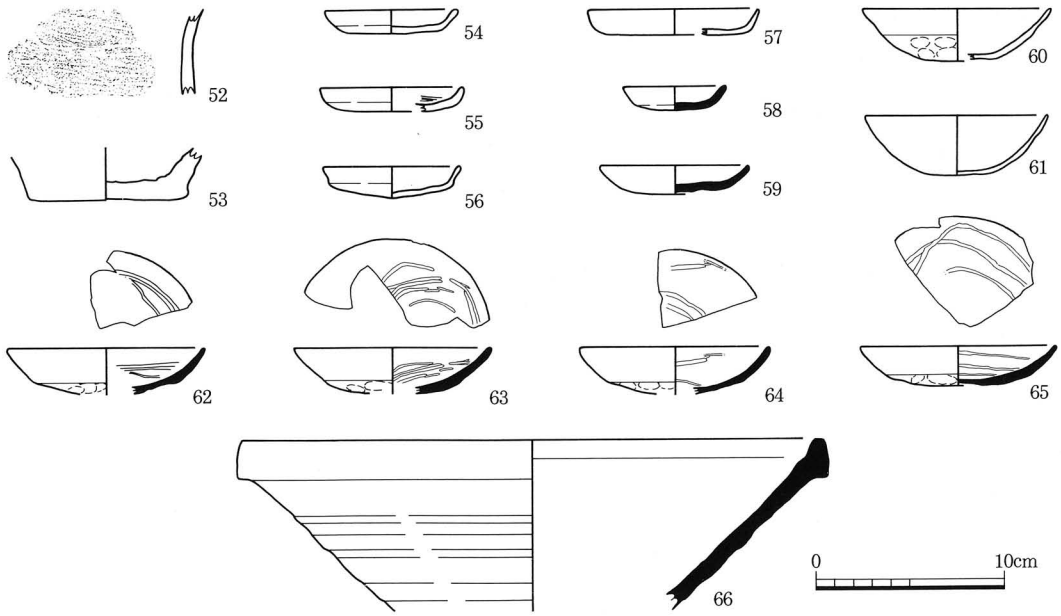
遺物は土師質土器の皿が出土したが、細片のため実測できなかった。



図版10　ＳＧＴ98－１調査区全景(北から)



図版11　ＳＰ３遺物出土状況(南から)



第18図　ＳＧＴ98－１出土遺物実測図

［ＳＰ５］

ＳＰ５はＳＰ４の北東1.2mに位置する。遺構の平面形は円形である。規模は径0.35m、深さ0.28mを測る。

遺物は土師器の甕、土師質土器の皿、瓦器椀、陶器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＰ６］

ＳＰ６はＳＰ５の北東0.35mに位置する。遺構の平面形は歪な円形である。遺構の規模は径0.34m、深さ0.09mを測る。

遺物は縄文土器と見られるものが出土したが、細片のため図化できなかった。

［包含層］（第18図、図版26）

包含層からサヌカイトの剝片、縄文土器、須恵器の坏・甕、土師質土器の皿(57)、瓦器椀(64・65)、須恵質土器の練鉢(66)、常滑の甕、平瓦が出土した。（鳥羽）

3　まとめ

調査区が狭小のため何ら遺構の復元はできなかった。しかし、惣持寺跡は鎌倉時代の密教寺院跡として知られていたが、縄文時代晩期の土器が出土したことや、石川の対岸に位置する宮山遺跡（註１）と同様な立地であることなどから縄文時代の集落でもある可能性が提起された。このことから今後の調査では、両遺跡間及び西側の旧石器時代から中世の遺跡である高向遺跡をも含めた関係を念頭に、調査を進める必要がある。（鳥羽）

（註１）『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XIV』　河内長野市教育委員会　1998年３月

第４節　高向遺跡

１　位置と環境

当該遺跡は岩湧山系を水源とする石川の左岸の中位段丘上に位置する。旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である。

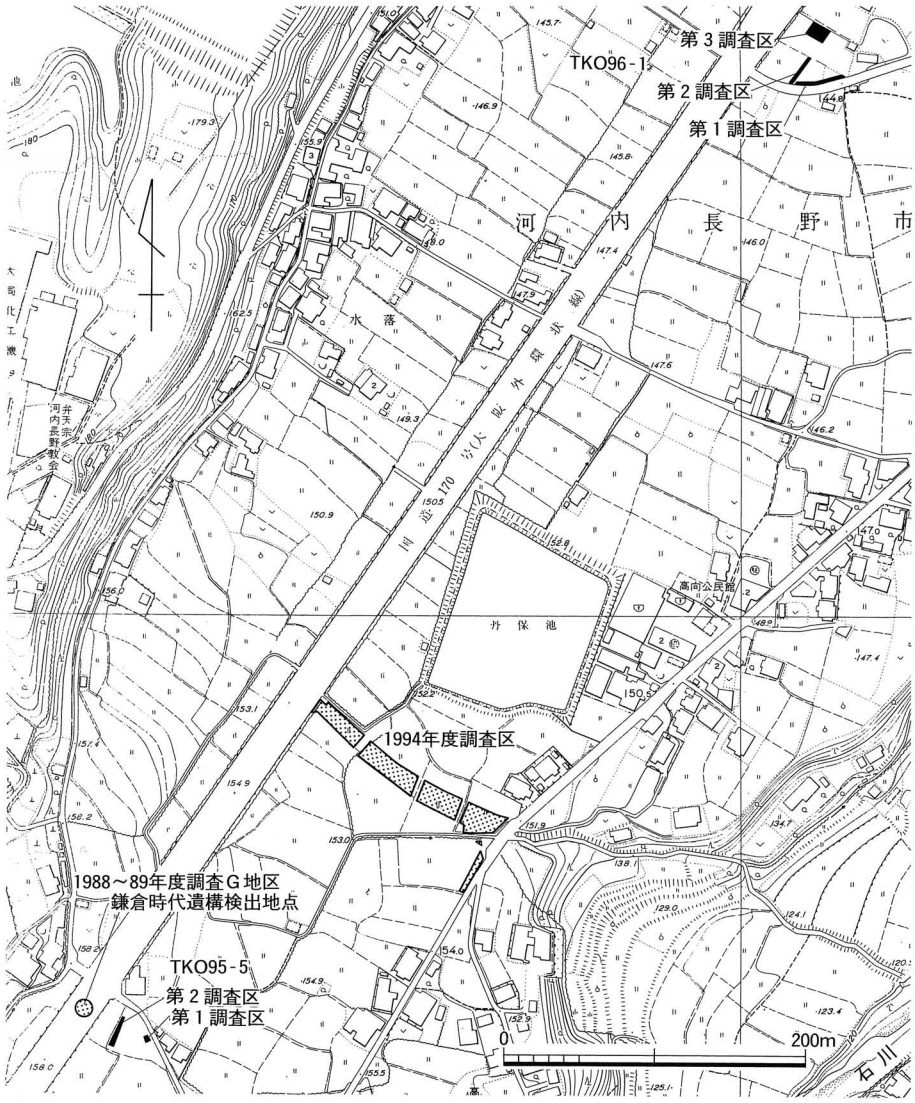
２　遺構と遺物

（１）　ＴＫＯ95－５

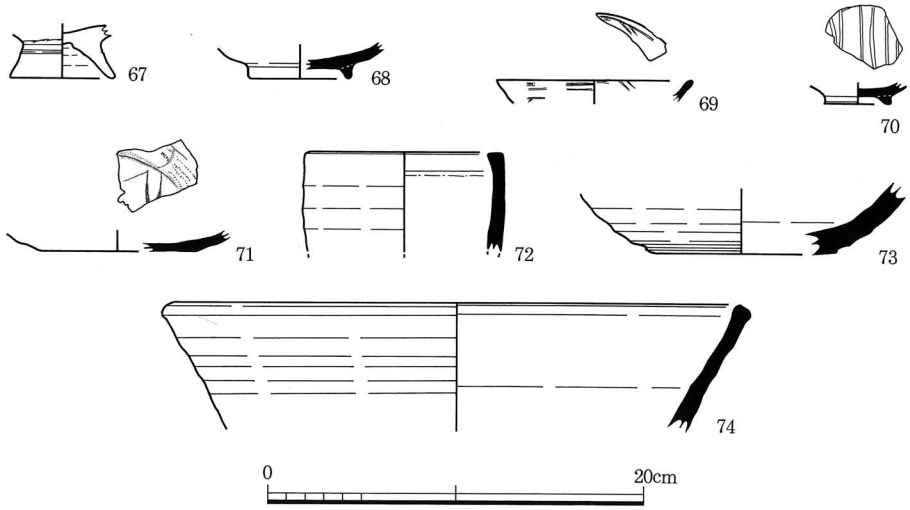
Ａ．遺構

本次調査地は高向地内に所在する。個人住宅建設に伴う事前調査として実施し、調査区は２カ所設定した。調査面積は第１調査区が13.5㎡、第２調査区が56㎡である。基本層序は、両調査区ともに耕土(層厚0.25m)、床土(同0.05m)、10YR6/2灰黄褐色シルト混じり粗砂(同0.1m)、10YR4/2灰黄褐色シルト混じり粗砂(同0.25m)であった。

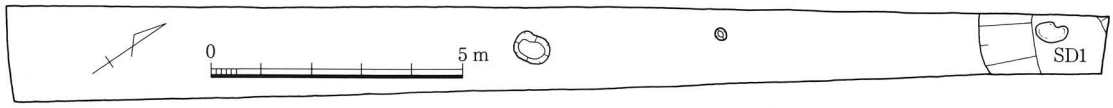
遺構は第１調査区では皆無であったが、第２調査区からは溝、ピットが検出された。



第19図　調査区位置図(1/5000)



第20図　ＴＫＯ95－５第１調査区出土遺物実測図



第21図　ＴＫＯ95－５第２調査区遺構配置図(1/150)

第１調査区

［包含層］(第20図、図版27)

包含層からサヌカイトの剝片、土師器の甕、須恵器の坏蓋・坏身・壺・甕、製塩土器、土師質土器の皿・台付皿の脚部(67)・土釜、瓦器の小型椀・椀(68～70)、瓦質土器の火鉢・甕、須恵質土器の椀(73)・練鉢(74)、青磁の皿(71)・香炉(72)、平瓦が出土した。

図版12　ＴＫＯ95－５第２調査区全景(北東から)

第２調査区

［ＳＤ１］(第22図、図版26～28)

ＳＤ１は調査区の北東端に位置する。溝の北端と東西端は調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は、検出幅2.65m、深さ0.63mを測る。

遺物は土師器の皿(75～77)・坏(78・80～83)・高坏・椀(84)・鉢・甕(85～88)・土釜(89～91)、須恵器の坏蓋(92・93・95)・坏身(96・97)・ねり鉢(99)・鉄鉢・盤・短頸壺蓋(100)・短頸壺(102)・長頸壺(98・101)・甕(103)、製塩土器、黒色土器Ａ類椀、瓦器椀、瓦質土器が出土した。

［包含層］(第22図、図版26～28)

包含層からは土師器の皿・坏(79)・土釜・甕、須恵器の坏蓋(94)・坏身・壺・広口壺・甕、製塩土器、瓦器椀(104・105)、平瓦が出土した。　(鳥羽)

Ｂ．遺物

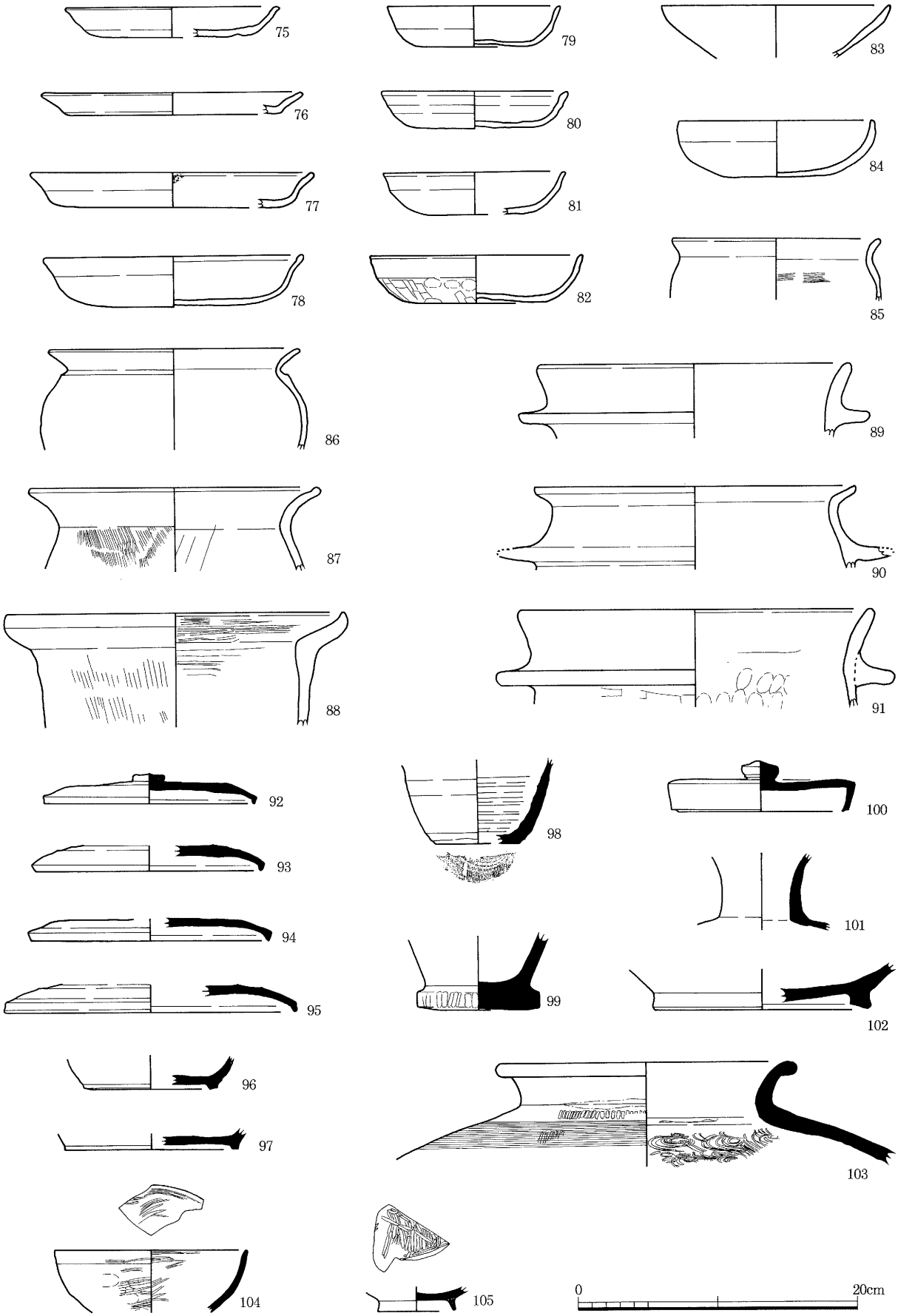
今回の調査では、第１・第２調査区包含層及び第２調査区ＳＤ１からサヌカイトの剝片、土師器、須恵器、製塩土器、黒色土器、土師質土器、瓦器、須恵質土器、磁器、瓦が出土している。遺物の遺存状況は悪く、特に土師器の器表面は摩滅しており調整などの観察が困難なものが大多数であった。土師器・須恵器の器種名・技法等については概ね『平城宮発掘調査報告Ⅶ』の用例にしたがい、須恵器の坏に関しては、中村編年による型式名を併記した。

〔土師器〕

土師器は皿、坏、高坏、椀、鉢、甕、土釜が出土している。ここでは実測が可能であったもののみ記述を行う。

皿　(75～77)はＳＤ１から出土した。(75)は内弯する口縁を有する。(76・77)は口縁上半部が外弯し、下半部が内弯する。(76・77)は皿Ａであり、(75)は皿Ｃである。

坏　(78・80～83)はＳＤ１から、(79)は第２調査区包含層から出土した。(83)は口縁部の外傾化が進ん



第22図　ＴＫＯ95－５第２調査区出土遺物実測図

でいることから他のものより新しい時期のものである。(79～82)は内弯する口縁部を有しており、口縁端部は内傾している。坏Cに相当する。(78)は口縁下半部が内弯し、上半部が外反するA形態の口縁部を有し、口縁端部は肥厚している。坏Aに相当する。

椀　(84)はＳＤ１から出土した。内弯する口縁端部を有し、口縁部から底部への移行は漸移的である。椀Cに相当する。

甕　(85～88)はＳＤ１から出土した。(85・86)は球形の体部に短い口縁部を有する。在地系の甕である。(87)は口縁部が「く」の字形に外反し、口縁端部は肥厚する。体部外面には縦方向のハケメを施す。(88)は筒型の胴部に「く」の字型に外反する口縁部を有し、口縁端部は上方につまみ上げられている。内面は横方向のハケメ、外面は縦方向のハケメによって仕上げられている。

土釜　(89～91)はＳＤ１から出土した。(89・91)は直立ぎみに外反する口縁部を有する。(90)は外反する口縁部を有し、類例から球形の体部を持つものと考えられる。

〔須恵器〕

須恵器は坏蓋、坏身、ねり鉢、鉄鉢、盤、短頸壺蓋、短頸壺、長頸壺、甕が出土している。ここでは実測が可能であったもののみ記述を行う。

坏蓋　(92・93・95)はＳＤ１から、(94)は第２調査区包含層からから出土している。いずれも、天井部が弧状をなし、中村編年のⅣ型式２段階から３段階に相当するものである。

坏身　(96・97)はＳＤ１から出土した。ともに底部のみの小片であり口径等は不明である。高台を有しており、坏Bに相当する。

ねり鉢　(99)はＳＤ１から出土した。底部は扁平な台状を呈している。

短頸壺蓋　(100)はＳＤ１から出土した。扁平化した宝珠つまみを有する。

短頸壺　(102)はＳＤ１から出土した。底部の破片である。脚部の外側が下方へ突出し、接地面をなしている。

長頸壺　(98・101)はＳＤ１から出土した。(101)は頸部のみの小片であり法量や、全体的な形態は不明である。(98)は底部のみの破片であるが、細長い体部を有するものである。

甕　(103)はＳＤ１から出土した。大型品で、口縁部は直立気味に外反し、口縁端部は肥厚している。

〔その他〕

土師質土器台付皿　(67)は第１調査区包含層から出土した。脚部のみの破片で、「ハ」の字形にのびる脚部を有する。

瓦器椀　(68～70)は第１調査区包含層から、(104・105)は第２調査区包含層から出土した。(104)は和泉型瓦器椀であり、尾上編年のⅠ期～Ⅱ期に相当する。(68・105)はⅠ期、(69・70)はⅢ期に相当する。

東播系須恵質土器　(73・74)は第１調査区包含層から出土した。(73)は椀であり、底部に平高台を有する。(74)は練鉢である。ともに森田編年の第Ⅰ期１段階に相当する。

青磁皿　(71)は第１調査区包含層から出土した。見込みに櫛描き文が施されている。

青磁香炉　(72)は第１調査区包含層から出土した。口縁部内面から外面全体にかけて施釉されており、口径10㎝を測る。

(太田)

（2） ＴＫＯ96－１

当該遺跡はその地理的環境から東西に大きく二分できる。東側の段丘縁辺部と、段丘中央部から西側の丘陵裾部にかけての範囲である。東から西に向かって傾斜しているため、段丘縁辺部が比較的乾燥した環境であるのに対して、西側の丘陵裾部に向かうにつれ、湿潤な環境にあると思われる。

また市域の大半を山地地形が占める当市では珍しく、条里地割の痕跡らしいものも見られ、班田制が施行されていた時期には、比較的広域な平坦地を持つこの地帯が生産活動の場となっていたと考えられる。既往の調査から、東側の段丘縁辺部を居住域、段丘中央部から西側の丘陵裾部を生産域として利用していたものと推測される。

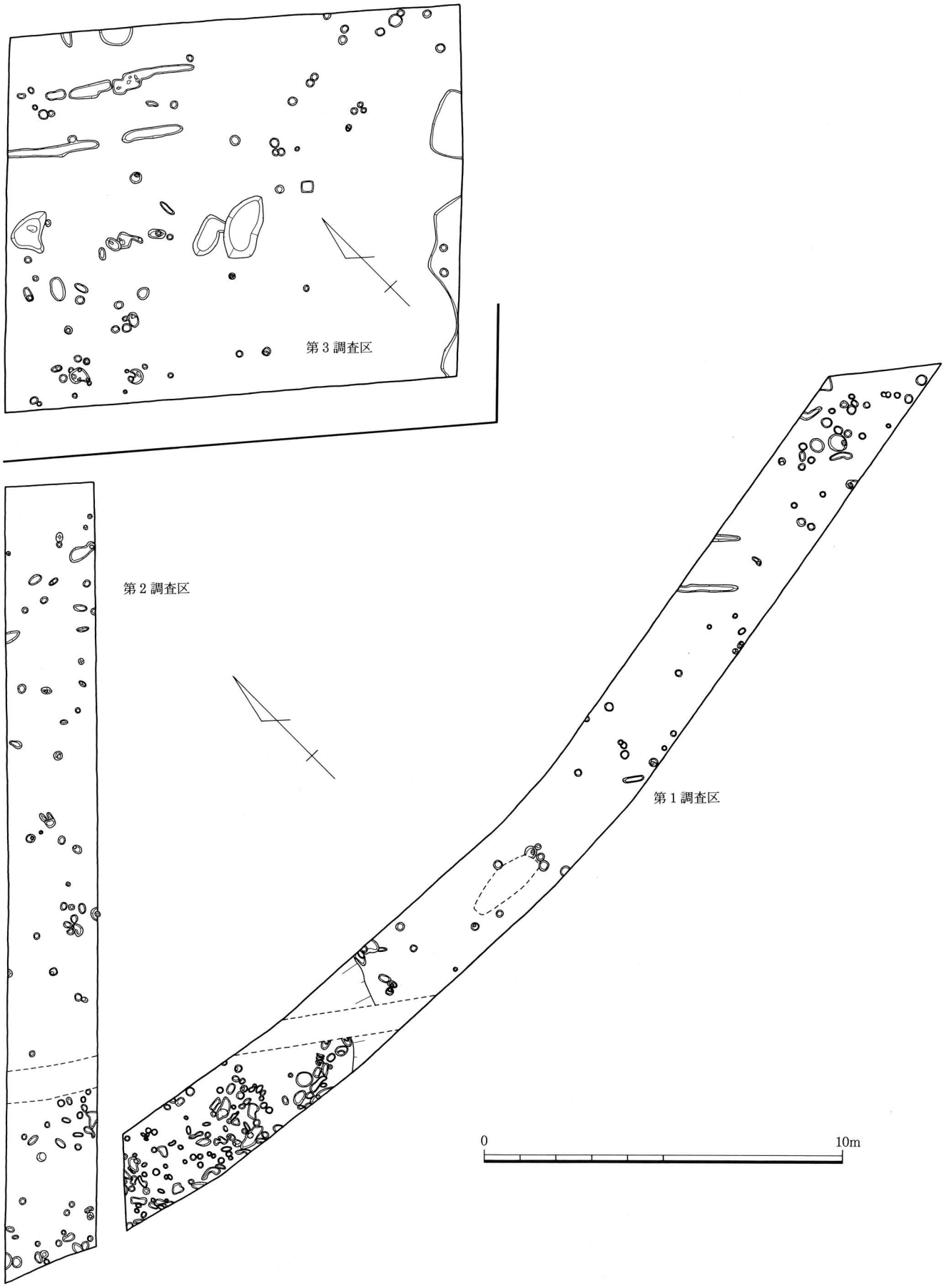
本次調査地は段丘中央部に位置している。調査は高向地内の給油所建設予定地の事前調査として実施し、調査区は３カ所設定した。調査面積は第１調査区が85㎡、第２調査区が70㎡、第３調査区が135㎡である。基本層序は概ね同じで、上から現代耕土・床土(層厚0.3～0.4m)、2.5Y6/3にぶい黄色細砂(同0.1m)、2.5Y5/1黄灰色粗砂混じり粘土(同0.1m)であった。

各調査区とも現地表面から0.5～0.6m下で遺構が検出された。

第１調査区

当調査区では多数のピットが検出された。ピットは調査区西側で集中的に検出された。これらのピットの中には柱穴と思われる掘形を持つものもいくつかあったが、調査区の形状により平面的に建物や柵

図版13　ＴＫＯ96－１第１調査区全景(西から)



第23図　ＴＫＯ96－１遺構配置図(1/150)

列などの上部構造は確認することはできなかった。ピット内の埋土は直上層(2.5Y5/1黄灰色粗砂混じり粘土)と同一のものと思わる。

ピット内から土師質土器や瓦質土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［包含層］(第24図、図版28)

出土した遺物の大半が土師質土器、瓦質土器など中世の日常雑器の細片である。サヌカイトの石核(106)と土錘(107)が実測できた。これらは後世の攪乱による紛れ込みであろう。

第2調査区

遺構は約70基のピットを検出した。ピットは調査区内に散在的に位置し、建物プランなどは確認できなかった。

遺構から遺物は出土しなかった。

［包含層］

(第24図、図版28)

須恵器の台付き鉢の脚部(108)、土師質土器、瓦質土器、瓦器椀(111)、白磁の皿(112)が出土した。

第3調査区

遺構は約70基のピットを検出した。柱穴と思われるピットもあったが、第1・2調査区同様、建物プランなどを確認することはできなかった。

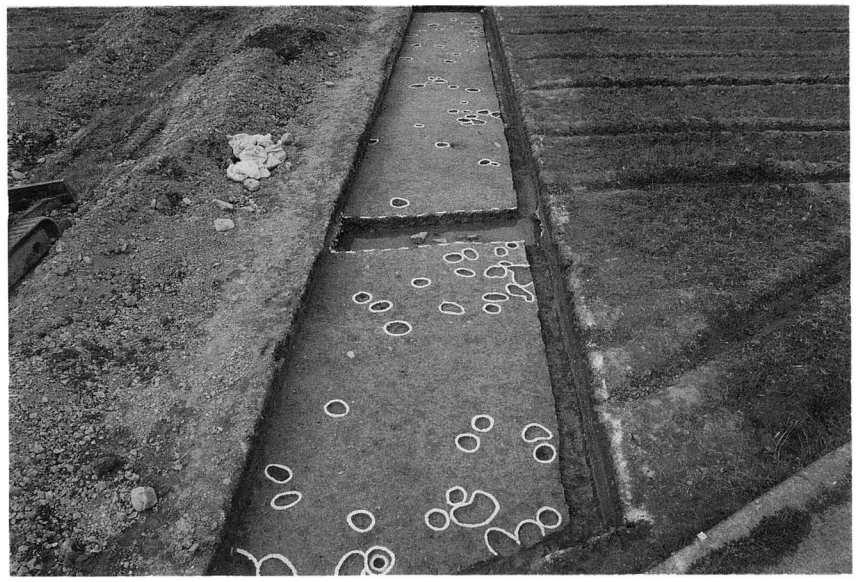
ピット内から土師質土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［包含層］

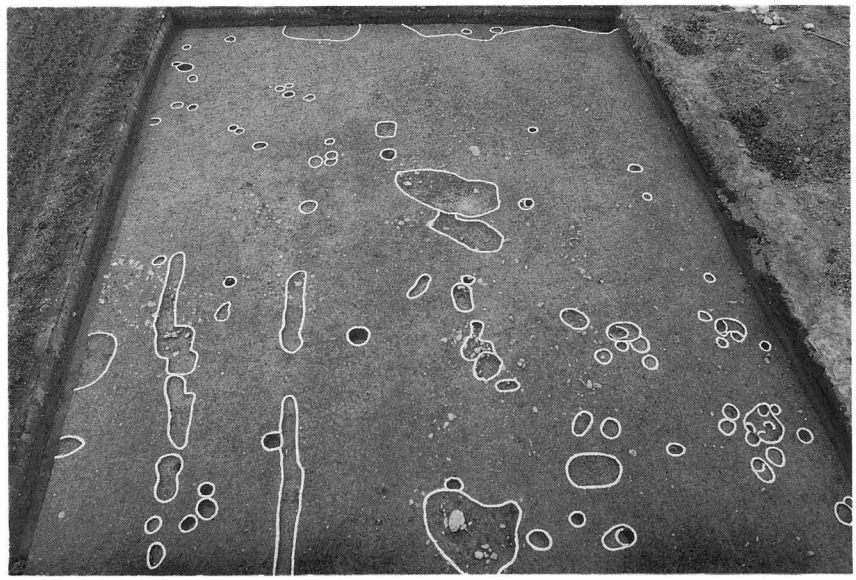
(第24図、図版28)

土師質土器の皿(109・110)・土釜(114)、瓦質土器、須恵質土器の擂鉢(115)、青磁の碗(113)などが出土した。

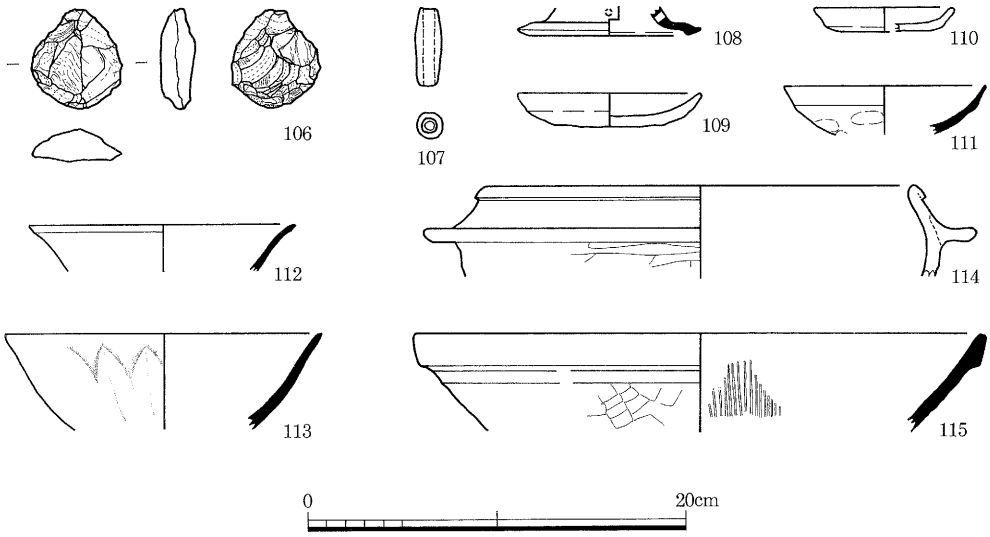
(中尾)



図版14　ＴＫＯ96－１第２調査区全景(南西から)



図版15　ＴＫＯ96－１第３調査区全景(北西から)



第24図　ＴＫＯ96－１出土遺物実測図

3　まとめ

TKO95－５調査区は、1987～88年度に実施された国道170号（大阪外環状線）建設に先立つ調査のＧ地区の東側に隣接している（註１）。本次調査では、Ｇ地区で検出された鎌倉時代の建物跡や井戸などの遺構との関連性は窺えず、何ら遺構の復元はできなかったが、遺構・包含層からは調査区の面積に比して多量の遺物が得られた。ＳＤ１から出土した遺物は平城宮Ⅲ式から平安京Ⅰ式にかけてのものであり、８世紀から10世紀にかけてのものである。包含層から出土した遺物はこれらに加えて11世紀後半のものがみられた。

当遺跡では1994年度の調査により、段丘縁辺部で奈良時代の掘立柱建物が数棟検出されている（註２）。これらの建物は当遺跡に移住してきた、開発者集団の住居と考えられ、彼らは水利の便の悪い段丘面の開発を早い時期にあきらめたものと思われる。しかし、中世にいたって、金剛寺や観心寺などの周辺寺院などによる荘園経営が活発になってくると、組織力を背景に未開墾地や荒田などの開発が行われるようになったと考えられる。可耕地の拡大は人口の増加を伴い、居住域も拡大した。古代において居住域として利用されなかった段丘中央部も、中世においては利用されたものと考えられる。

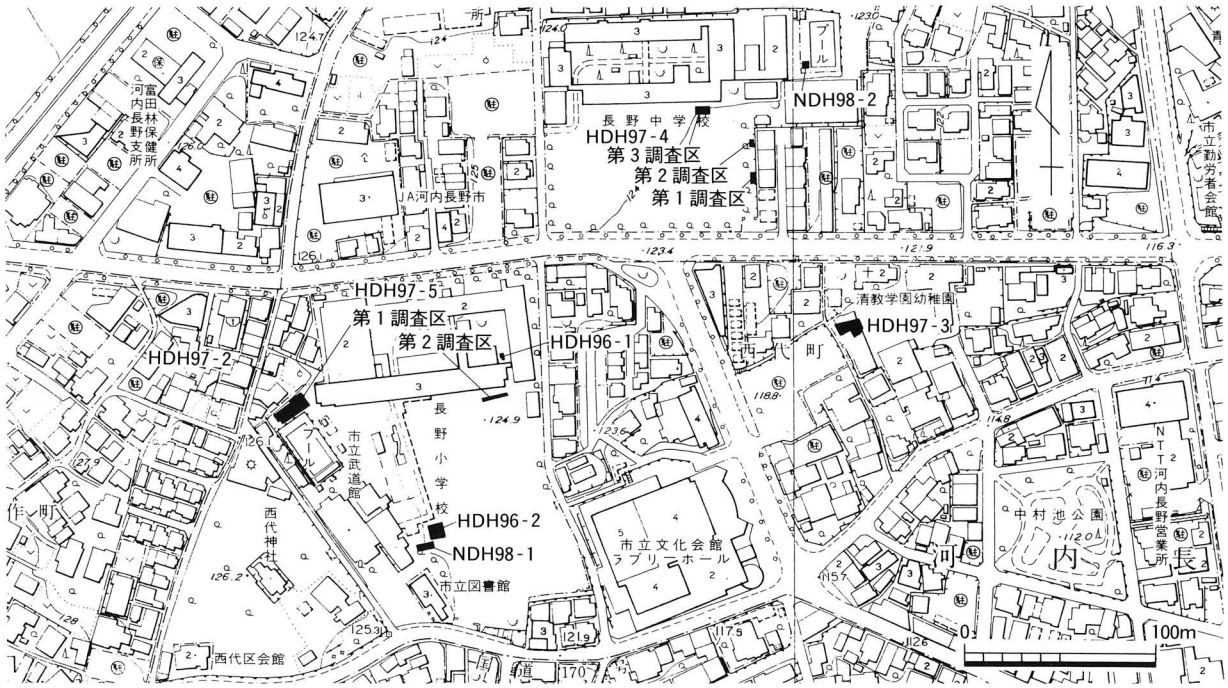
ＴＫＯ96－１調査区で検出された多数のピット群は、直上層から出土する遺物の大半が14世紀代のものと考えられることから、この時期のものである可能性が高い。調査区が狭小であったため建物プランなどは確認できなかったが、これらのピット群が中世の開発者の住居となる可能性は高い。

このように当遺跡では各時代における利用状況の違いが遺構や遺物の分布に反映されている。これは農業制度や技術の進歩と密接に関連するもので、史学的な見地からも今後の成果が期待される。

（鳥羽・太田・中尾）

（註１）　『高向遺跡』　財団法人大阪府埋蔵文化財協会　1989年３月
（註２）　『河内長野市遺跡調査会報Ⅻ』　河内長野市遺跡調査会　1996年３月

第５節　西代藩陣屋跡

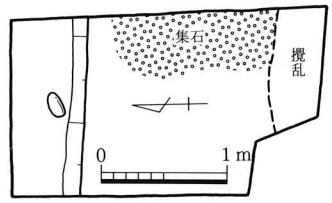


第25図　調査区位置図(1/4000)

１　位置と環境

当該遺跡は、石川左岸の中位段丘上の西代町及び本多町地内に位置する。西代藩は近江膳所藩から分かれた本多忠統を藩主としたもので1711年から1732年の21年間にわたり河内長野の西代村に陣屋をおいた。領地はその後幕府領となり、明治には畑地として利用された。

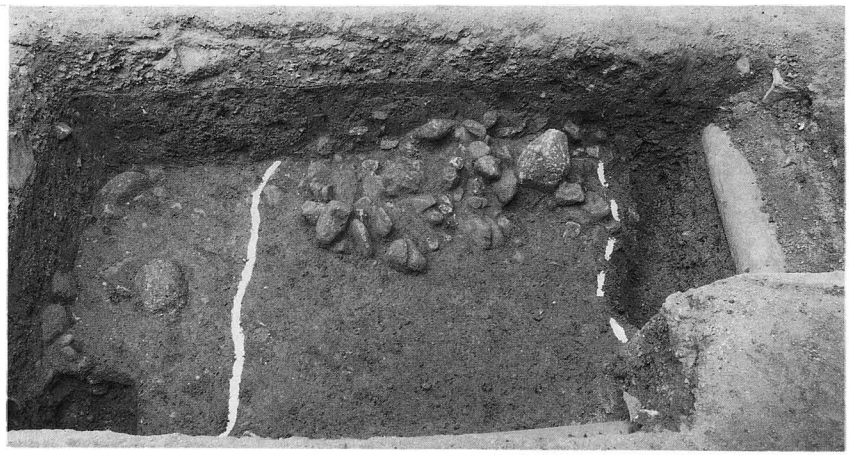
２　遺構と遺物



第26図　ＨＤＨ96－１遺構配置図(1/60)

(１)　ＨＤＨ96－１

本次調査は西代町地内の長野小学校内におけるエレベーター棟建設に先立ち実施し、調査区は１カ所設定した。調査面積は約４㎡である。基本層序は、盛土(層厚0.3m)、2.5YR4/1赤灰色礫混じり細砂(同0.15m)、5YR5/3にぶい赤褐色礫混じりシルト(同0.1m)、



図版16　ＨＤＨ96－１調査区全景(西から)

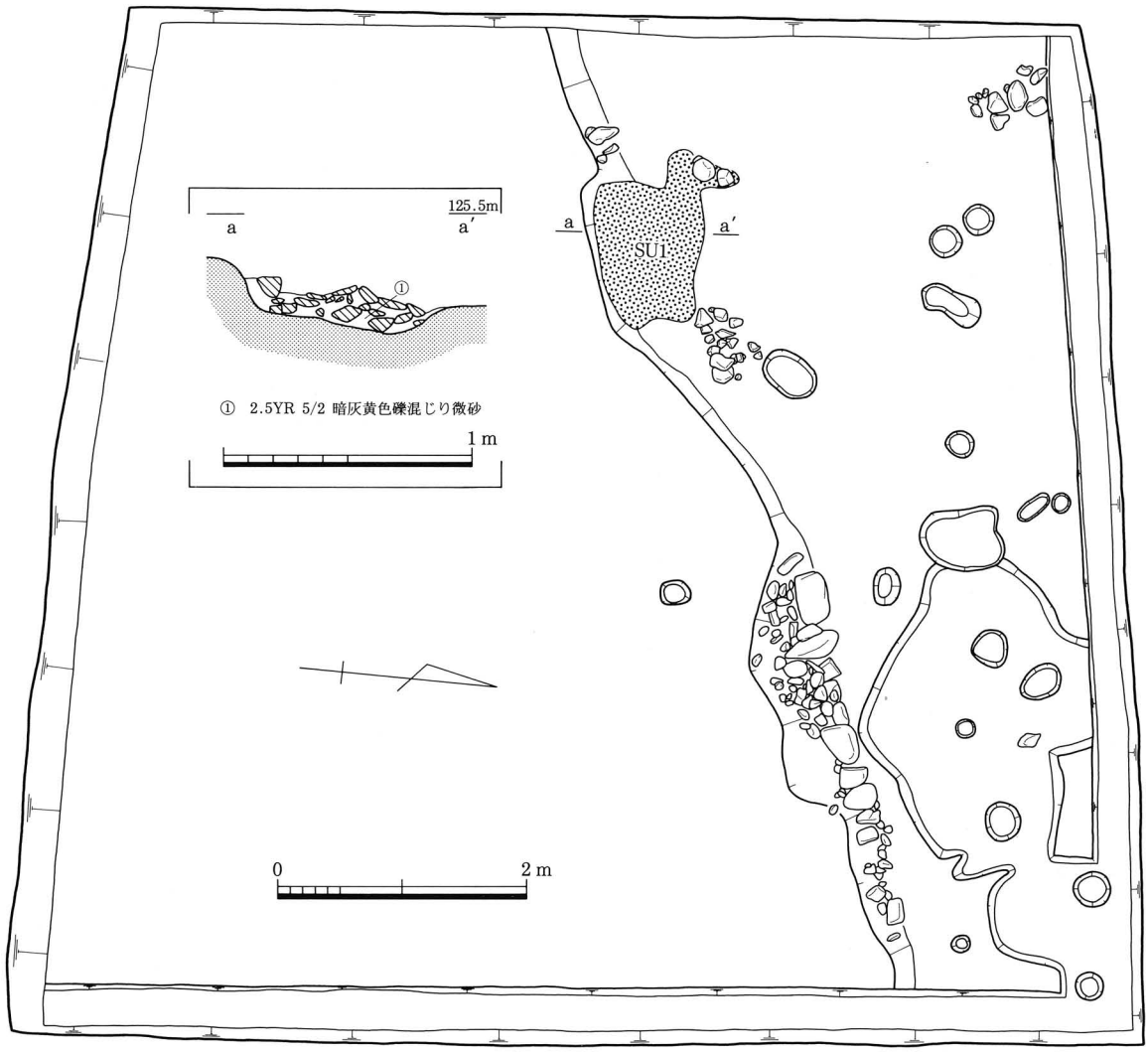
10YR7/8黄橙褐色礫(同0.2m)であった。

遺構は溝、集石を検出したが、遺物は出土しなかった。　(鳥羽)

(2)　ＨＤＨ96－２

調査地は石川によって形成された中位段丘の最上段に位置する。西代藩陣屋跡の遺跡範囲の南端にあたり、付近では「馬場先」という小字名が残っている。本次調査は長野小学校防火水槽設置に伴う事前調査として実施し、調査区を１カ所設

図版17　ＨＤＨ96－２調査区全景(東から)



第27図　ＨＤＨ96－２遺構配置図(1/60)及びＳＵ１遺構断面実測図(1/30)

定した。調査面積は約65㎡である。基本層序は盛土、10YR6/1褐灰色細砂(層厚0.08m)、10YR6/2灰黄褐色礫(同0.22m)であった。

遺構は、調査区北側で北に向かって傾斜する落ち込みを検出した。この落ち込みより南側ではほとんど遺構は検出されなかった。落ち込みの肩には、川原石を積んで護岸した形跡がみられた。落ち込みの埋土は最下層が自然堆積と思われる粘土層になっているが、その上層は人為的に埋め戻された状況がうかがわれ、多数の近世および近代遺物が出土した。

［ＳＵ１］(第27図)

ＳＵ１は長軸1.1m、短軸0.8mを測る。落ち込みの肩を掘り込んで、中にこぶし大の川原石を入れた

第28図　ＨＤＨ96－２出土遺物実測図

ものである。

遺物は出土しなかった。

［包含層］（第28図、図版28・30）

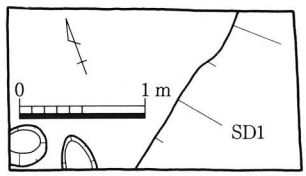
近世および近代の土師質土器、染付を中心とした陶磁器、泥人形などがある。日常雑器が大半を占め、これらは落ち込みを埋め戻す際に廃棄されたものと考えられる。近代の遺物は陣屋廃絶後の攪乱により埋没したものと思われる。

土師質土器の釜輪(125)・七厘(126)・火消し壺蓋(127)・器種不明(128)、堺擂鉢(124)、唐津の皿・埦、瀬戸美濃の香炉(118)、陶器の瓦灯皿・黒釉甕、肥前系磁器の染付碗(116・117)・中皿(119)、伊万里の鉢(120)、磁器の蓋(121)・仏飯器(122)・小瓶(123)、泥人形の布袋(129)が実測できた。　（中尾）

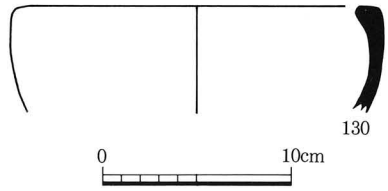
（3）　ＨＤＨ97－２

当該調査地は西代町地内に位置する。調査は個人住宅の建設に先立つ調査として実施し、調査区は１カ所設定した。調査面積は４㎡である。基本層序は、耕土(層厚0.15m)、7.5YR5/4にぶい褐色粘土混じり粗砂(同0.15m)であった。

遺構は溝、土坑を検出した。遺物は溝、包含層から出土した。



第29図　ＨＤＨ97－２遺構配置図(1/60)



第30図　ＨＤＨ97－２出土遺物実測図

図版18　ＨＤＨ97－２調査区全景(北から)

［ＳＤ１］

ＳＤ１は調査区の東側で検出された。北西端のみの検出であるので、詳細は不明である。規模は検出長1.5m、検出幅1.1m、深さ0.55mを測る。

遺物は土師質土器の甕が出土したが、細片のため実測できなかった。

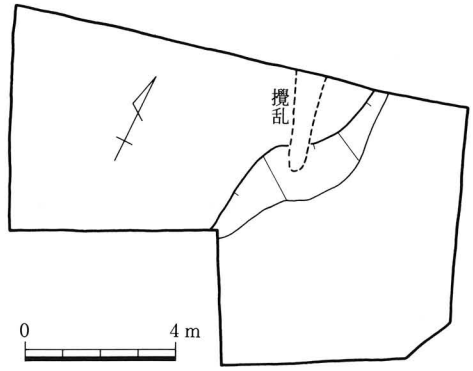
［包含層］(第30図、図版29)

包含層からは近世の瓦質土器の火鉢(130)、陶磁器、瓦が出土した。　（鳥羽）

（4）　ＨＤＨ97－３

当該調査地は西代町地内の清教学園幼稚園内に位置する。調査は園内での校舎、便所の改築に先立って実施し、調査区を１カ所設定した。調査面積は120㎡である。基本層序は表土の下が10YR4/6褐色粘土(層厚0.4m)、10YR4/6にぶい黄褐色粘土(同0.6m)、10YR2/3黒褐色粘土(同0.4m)であった。

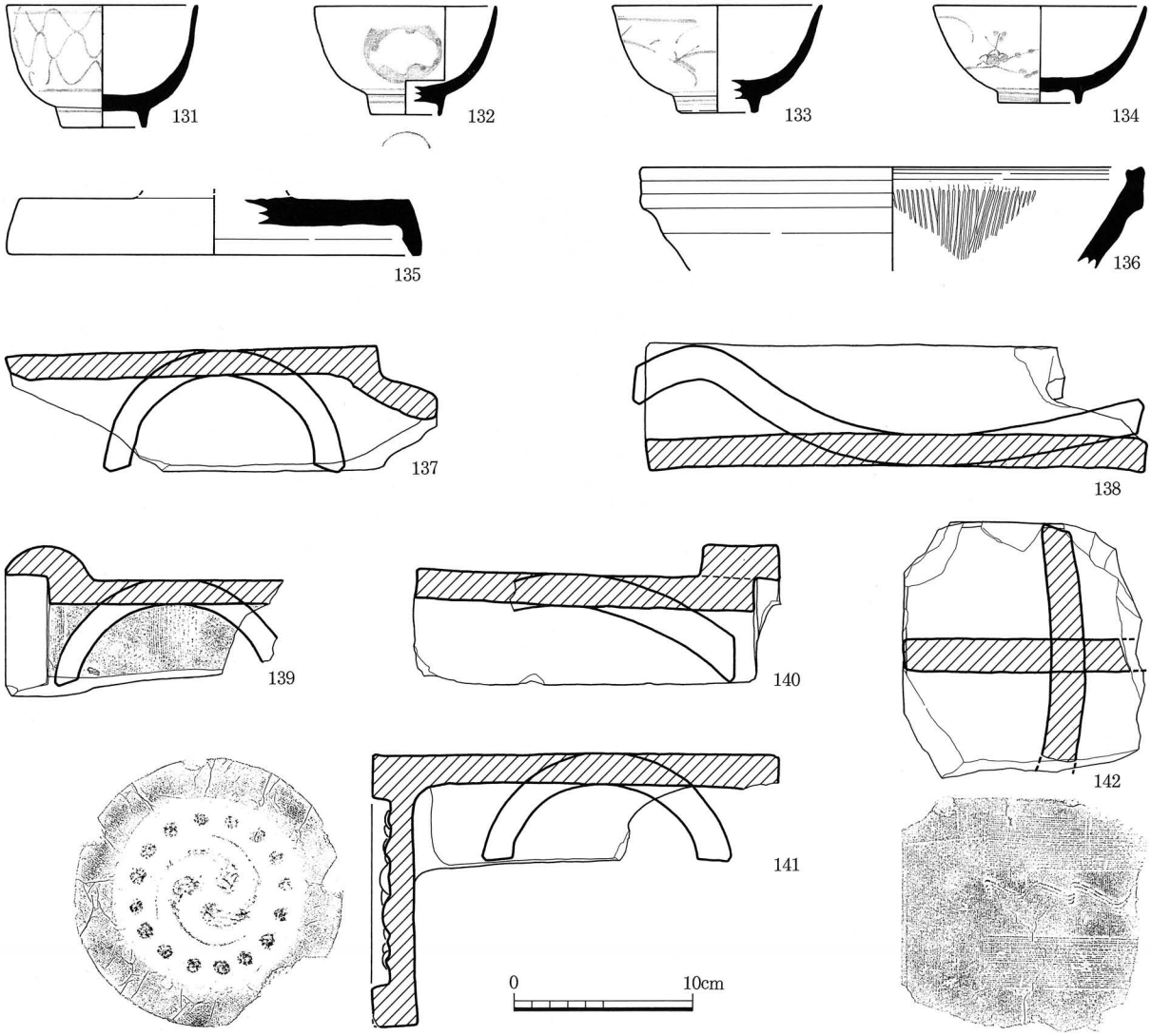
人為的に構築されたと考えられる遺構やそれに関連する遺物などは確認されなかった。わずかに、地形が大きく南東側に向かって下がっている谷状地形部分に、生活用品や石などを捨てたと推定させるような遺物の出土があったのみである。



第31図　ＨＤＨ97－３遺構配置図(1/200)

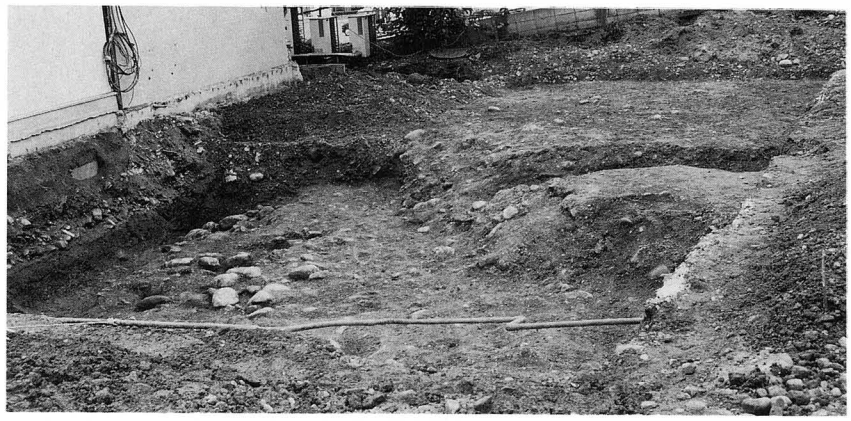
［包含層］(第32図、図版29)

土師質土器の皿・蓋・炮烙・甕・火鉢・七厘、瓦質土器の擂鉢・火消し壺蓋(135)・七厘、備前の擂鉢(136)・徳利、丹波の甕・擂鉢、堺擂鉢、唐津の小坏・刷毛目鉢、肥前系陶器、瀬戸美濃の埦・小壺・壺、信楽の甕、伊賀の鍋、陶器の緑釉小瓶、肥前系磁器の染付碗(131～134)・皿・徳利、青磁の碗蓋、軒丸瓦(141)・軒平瓦・丸瓦(137)・平瓦(142)・桟瓦(138)・組丸瓦(139)・冠振瓦(140)、近代陶磁器が出土した。　(鳥羽)



第32図　ＨＤＨ97－３出土遺物実測図

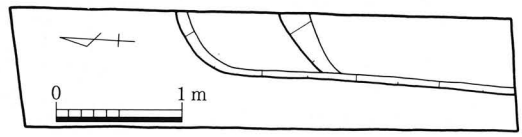
図版19　ＨＤＨ97－３ ▶
調査区全景(東から)



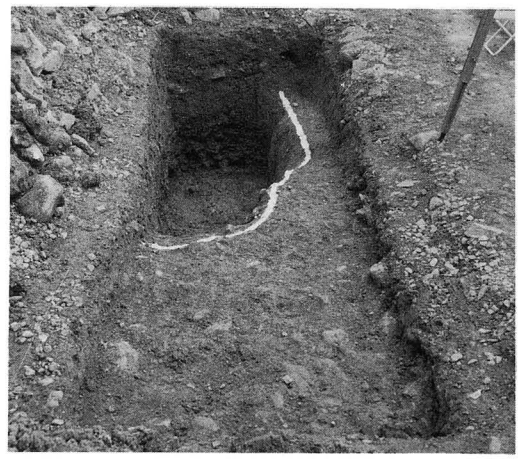
（５）　ＨＤＨ97－４

当該調査地は、本多町地内の長野中学校の構内に位置する。調査は構内の大規模改修に伴う事前調査として実施し、調査区は３カ所設定した。調査面積は第１調査区が約５㎡、第２調査区が約1.7㎡、第３調査区が約６㎡である。基本層序は、表土(層厚0.25m)、10YR4/2灰黄褐色粘土(同0.25m)であった。

遺構は第１調査区から土坑を検出したが、第２・３調査区では検出されなかった。いずれからも遺物は出土しなかった。　　(鳥羽)



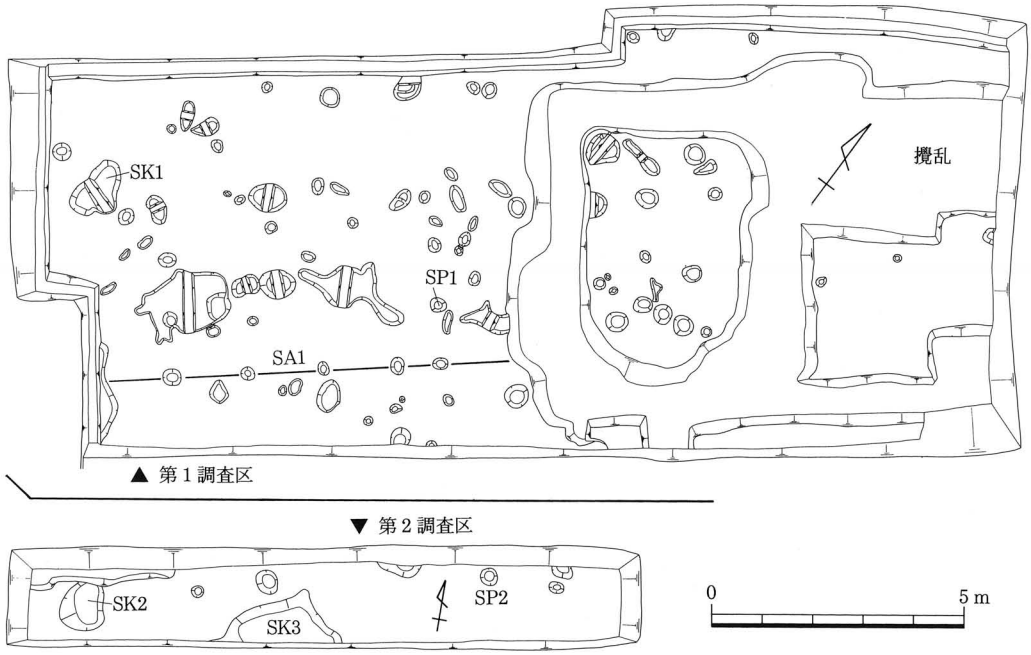
第33図　ＨＤＨ97－４第１調査区遺構配置図(1/60)



図版20　ＨＤＨ97－４第１調査区全景(北から)

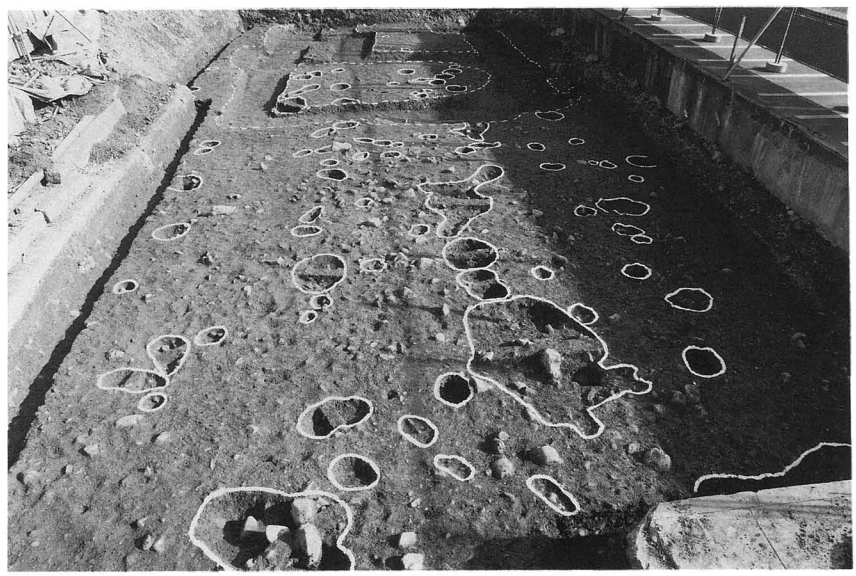
（６）　ＨＤＨ97－５

当該調査地は、長野小学校の構内に位置する。本次調査は長野小学校のプール機械室及び大規模改修工事



第34図　ＨＤＨ97－５遺構配置図(1/150)

に伴う事前調査として実施し、調査区は２カ所設定した。調査面積は、第１調査区が約160㎡、第２調査区が約25㎡である。基本層序は、第１調査区が表土(層厚0.15m)、耕土(同0.05m)、床土(同0.05m)、地山は5YR4/6灰赤褐色礫混じりシルトであった。



図版21　ＨＤＨ97－５第１調査区全景(西から)

遺構は第１調査区から柵列、土坑、ピット、第２調査区から土坑、ピットを検出した。両調査区から近世の遺物が出土した。

第１調査区

［ＳＡ１］

ＳＡ１は調査区の南側に位置する。北東端は攪乱を受け、南西端は調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は、検出長８ｍ、柱間0.8～1.5m、柱穴の径0.22m～0.35m、深さ0.12～0.24mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＫ１］

ＳＫ１は調査区の西側に位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は長軸1.26m、短軸0.84m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質土器が出土したが、細片のため図化できなかった。

［ＳＰ１］

ＳＰ１は調査区の中央に位置する。遺構の平面形は不定形である。遺構の規模は長軸0.32m、短軸0.22m、深さ0.2mを測る。

遺物は肥前系磁器の染付碗が出土したが、細片のため図化できなかった。

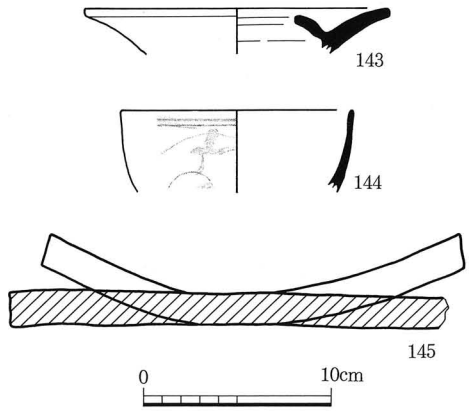
［包含層］(第35図、図版29)

包含層から青磁の坏台(143)、肥前系磁器染付碗が出土した。

第２調査区

［ＳＫ２］(第35図)

ＳＫ２は調査区の西側に位置する。遺構の平面形は北側が一部攪乱されているが、不定形と判断できる。規模は長軸1.01m、短軸0.88m、深さ0.22mを測る。



第35図　ＨＤＨ97－５出土遺物実測図

遺物は平瓦(145)が出土した。

［ＳＫ３］

ＳＫ３は調査区の中央部南端に位置する。遺構の平面形は南側が調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は長軸2.28m、深さ0.17mを測る。

遺物は陶器が出土したが、細片のため図化できなかった。

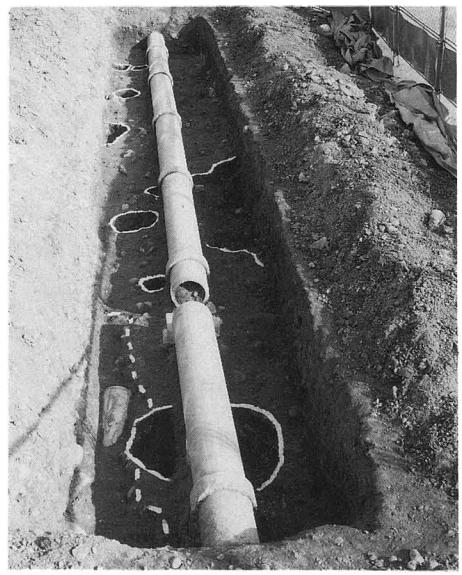
［ＳＰ２］

ＳＰ２は調査区の東側に位置する。遺構の平面形は円形である。規模は径0.36m、深さ0.29mを測る。

遺物は土師質土器の皿が出土したが、細片のため図化できなかった。

［包含層］(第35図、図版29)

包含層から土師質土器の皿、肥前系磁器の染付碗(144)、平瓦、丸瓦が出土した。　(鳥羽)



図版22　ＨＤＨ97－５第２調査区全景(西から)

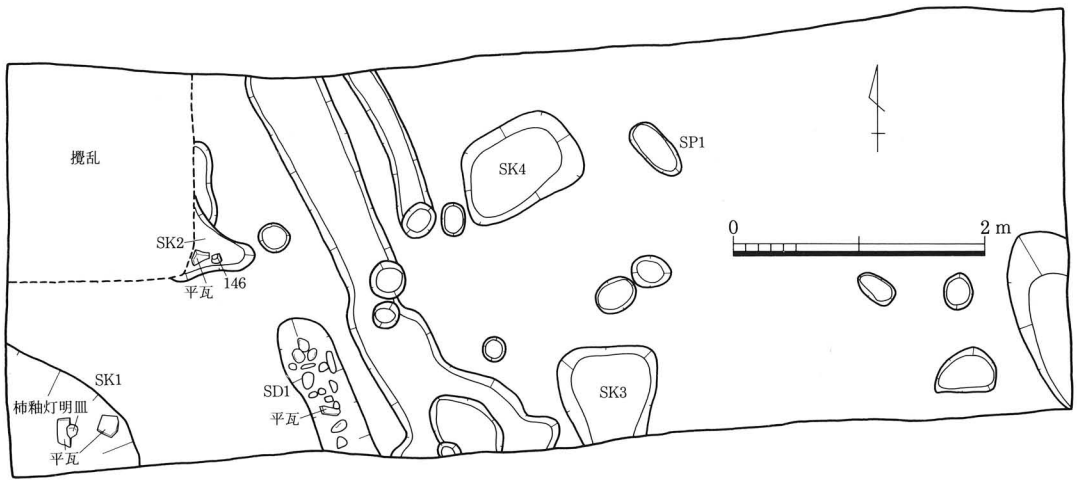
(７)　ＮＤＨ98－１

本次調査は長野小学校の廊下の建設に伴い実施し、調査区を１カ所設定した。調査区の面積は約30m²である。基本層序は、盛土(層厚0.4m)、5YR4/4にぶい赤褐色礫(同0.16m)、7.5YR5/3にぶい褐色礫混じり細砂(同0.2m)であった。

遺構は溝、土坑、ピットを検出した。遺物はHDH96－２と同様、主に江戸時代中期から後期の陶磁器類が出土した。

［ＳＤ１］

ＳＤ１は調査区の南端に位置する。遺構の南側が調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は検出長1.2m、幅0.43m、深さ0.12mを測る。遺構の主軸方向はＮ－25°－Ｗであった。遺構の内部には暗渠



第36図　ＮＤＨ98－１遺構配置図(1/60)

のようにこぶし大の礫が詰められていた。

遺物は平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ１］

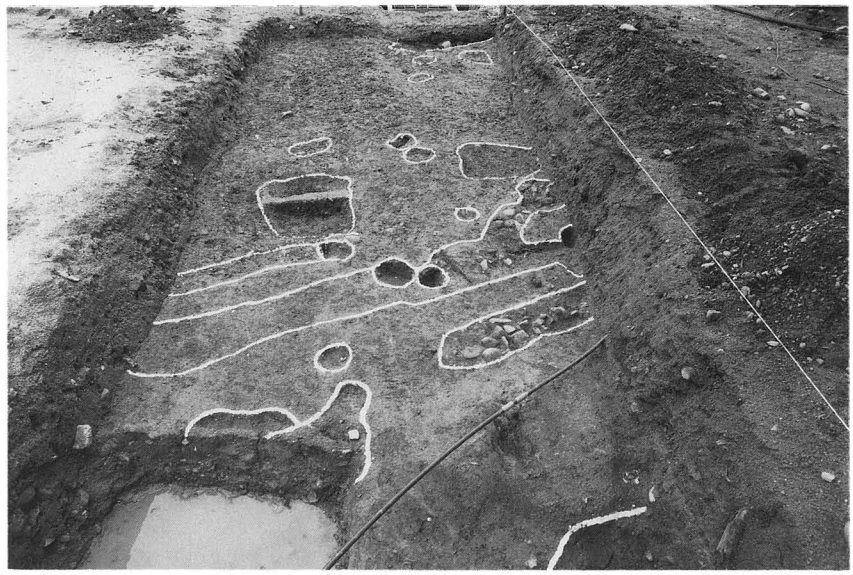
（第37図、図版29）

ＳＫ１は調査区の西側に位置する。遺構の西側と南側が調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は長軸1.08m、短軸1.02m、深さ0.23mを測る。

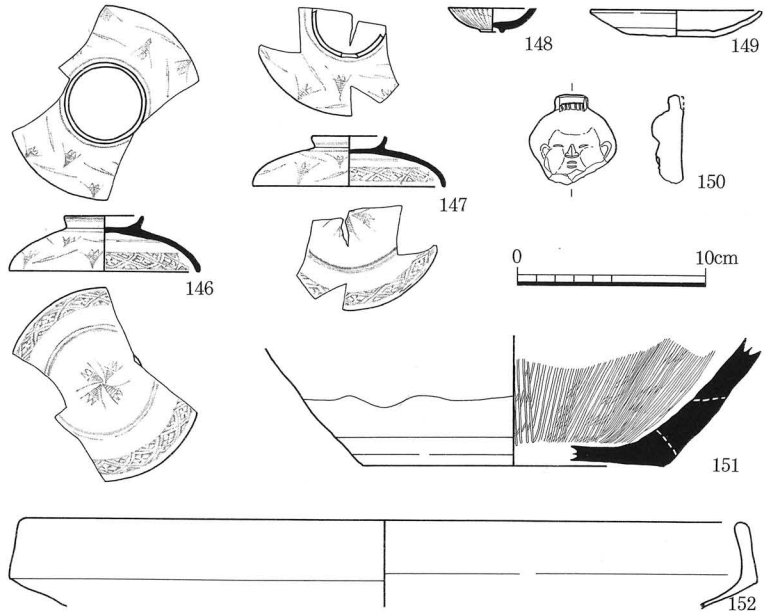
遺物は土師質土器の炮烙(152)・甕、柿釉の灯明皿、瀬戸美濃の埦、陶器の香炉・堝、肥前系磁器の染付碗・碗蓋(147)・皿、平瓦、鉄製品が出土した。

［ＳＫ２］(第37図、図版29)

ＳＫ２は調査区の西側に位置する。遺構の西側が攪乱されているため詳細は不明である。規模は長軸0.66m、短軸0.6m、深さ0.04mを測る。



図版23　ＮＤＨ98－１調査区全景(西から)



第37図　ＮＤＨ98－１出土遺物実測図

遺物は肥前系磁器の染付碗蓋(146)、不明磁器、平瓦が出土した。

［ＳＫ３］

ＳＫ３は調査区の南側中央に位置する。遺構の南側が調査区外に及ぶため詳細は不明である。規模は長軸0.94m、短軸0.86m、深さ0.12mを測る。

遺物は土師質土器の甕、平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ４］

ＳＫ４は調査区の中央に位置する。遺構の平面形は不定形である。遺構の規模は長軸1.05m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る。

遺物は磁器、平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＰ１］

ＳＰ１はＳＫ４の東側0.4mに位置する。遺構の平面形は楕円形である。規模は長径0.5m、短径0.24m、深さ0.04mを測る。

遺物は肥前系磁器の染付碗が出土したが、細片のため実測できなかった。

［包含層］（第37図、図版29）

包含層から土師質土器の皿・炮烙・甕、瓦質土器の火鉢、柿釉の灯明皿(149)、備前の壺、丹波の甕、堺擂鉢(151)、肥前系磁器の紅猪口(148)・染付碗、瀬戸美濃の埦、面子(150)、軒平瓦、掛瓦、平瓦、鉄釘が出土した。（鳥羽）

（８）　ＮＤＨ98－２

本次調査は長野中学校内におけるプール機械室建設に伴う事前調査として実施し、調査区を１カ所設定した。調査面積は約18㎡である。基本層序は盛土(層厚0.3m)、10YR6/6明黄褐色粘土(同0.1m)、10YR4/2灰黄褐色粘土(同0.1m)であった。遺物は出土しなかったが、埋没状況から土坑と判断できる遺構が検出された。

［ＳＫ１］

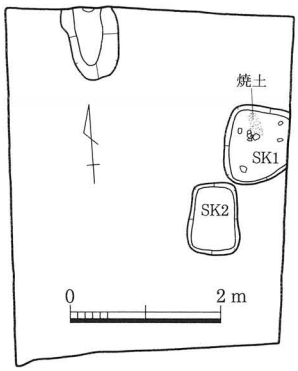
ＳＫ１は調査区の東端で検出された。遺構の平面形は東側が調査区外に及ぶものの不定形と判断できる。規模は長軸1.05m、短軸0.8m、深さ0.16mを測る。遺構の底部は火を受けて、還元層を形成しており、埋土には炭化物が多くみられた。

遺物は出土しなかった。

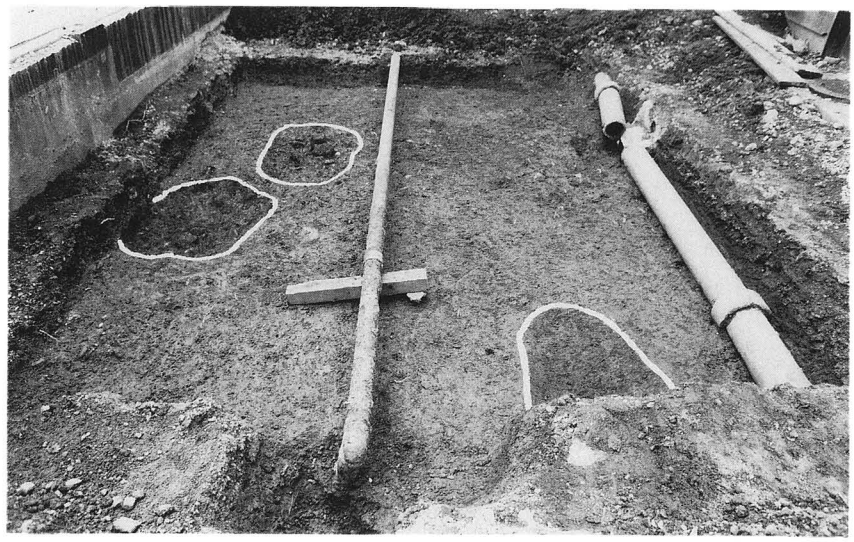
［ＳＫ２］

ＳＫ２はＳＫ１の南側に接して検出された。遺構の平面形は隅丸方形である。規模は１辺１m、深さ0.07mを測る。ＳＫ１と同様、埋土には炭化物が多くみられた。

遺物は出土しなかった。（鳥羽）



第38図　ＮＤＨ98－２
遺構配置図(1/100)



図版24　ＮＤＨ98－２調査区全景(北から)

3　まとめ

平成８年度から10年度にかけて、長野小学校・長野中学校を中心に数次の調査を実施したが、いずれも調査区が狭小であるため、各遺構の性格を十分には把握できなかった。

HDH96－２調査区では、北側で検出された落ち込みの全体は把握できなかったが、部分的とはいえ護岸した形跡が見られた。西代村絵図（註１）には西代藩陣屋が描かれており、それによると調査地は陣屋の南端部、西代神社の東部に位置する。本次調査区付近には西代神社の参道の外側に堀、もしくは側溝が描かれており、それに類するような遺構を検出した可能性もある。また出土した近世遺物も、雨降り柳文を描いた肥前系磁器や泥人形など趣味性の強い遺物もあることから、西代神社に関連する遺物である可能性は高い。

また当調査地でミニチュアの花瓶が出土した。これと同様な遺物が市域では、塚穴古墳（註２）の調査で石室から出土している。石室は近世初頭頃の墓地として利用されていたことが判明し、ミニチュアの花瓶は仏前に供えられる仏具として利用されていたと推定された。西代神社内に神宮寺が存在した記録がないことや、陣屋内や周辺の藩士等の家屋の仏壇等に供えられた仏具でなければ、当遺跡出土品は、西代神社の小祠の神具として使用された可能性が高い。当時の人々は供物を供えるに当たり、神・仏をそれほど厳密に区分していなかったか、本地仏として手向けたことを示しているのかも知れない。

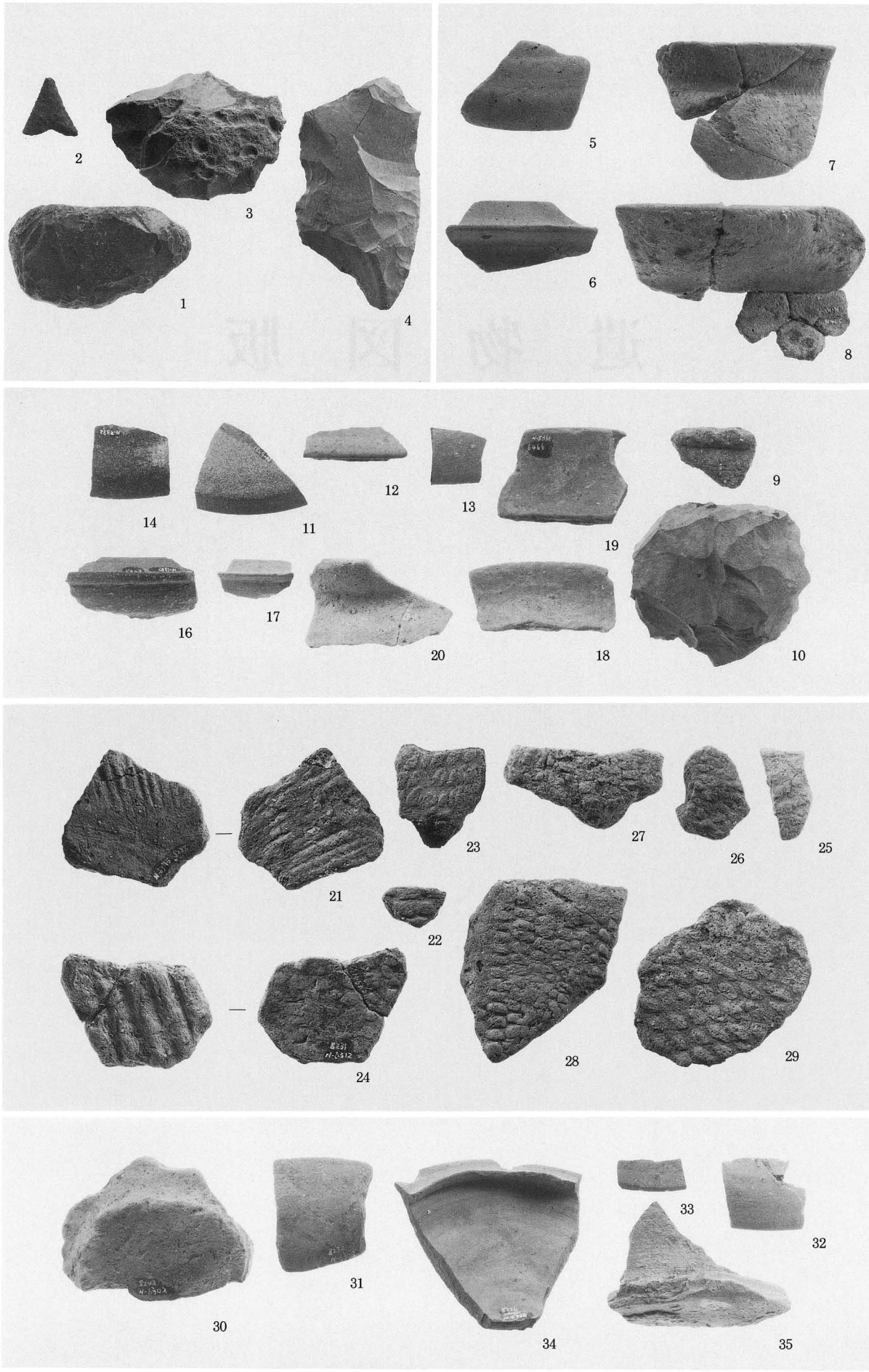
HDH97－３調査区では、当該地域が段丘の端となり、遺構の所在する部分とは考えにくい地域であることが明らかとなった。遺物は多数出土したが、江戸時代後半以後の瓦や陶磁器が大半を占めていた。これらが西代藩陣屋といかなる関係にあるのかは、今後の研究を待たねばならないが、当時の生活品の捨て場として利用されたらしいことは、遺物の残存状況について、今後とも注意を要する地域である事を示していると言えよう。

また、HDH96－２の落ち込みに伴う石組や、HDH97－5調査区の柵列などの遺構が、何らかの規制を受けた軸方向をもつことが確認できたのは成果であった。今後これらの軸方向を考慮して調査を実施する必要があろう。

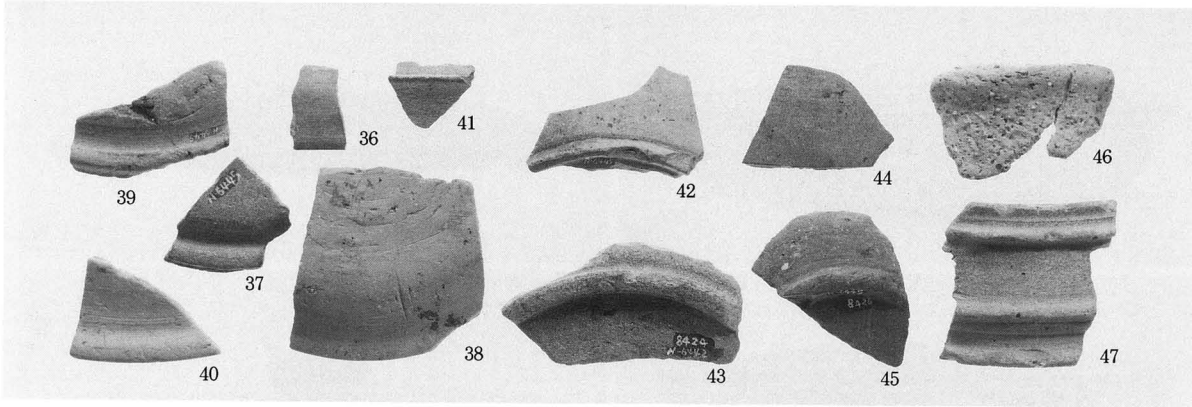
（鳥羽・中尾）

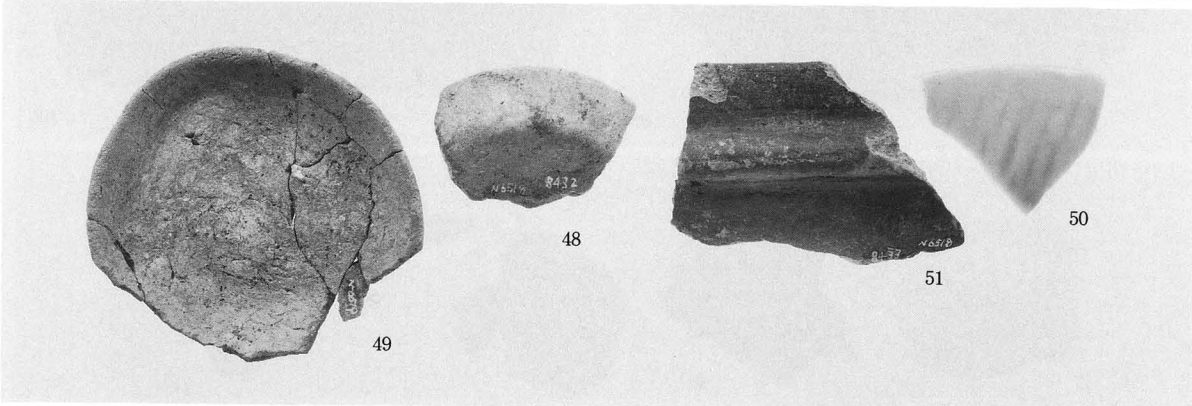
（註１）　『河内長野の古絵図』　河内長野市教育委員会　1983年３月
（註２）　『河内長野市遺跡調査会報XIX 上原遺跡 塚穴古墳』　河内長野市遺跡調査会　1998年３月

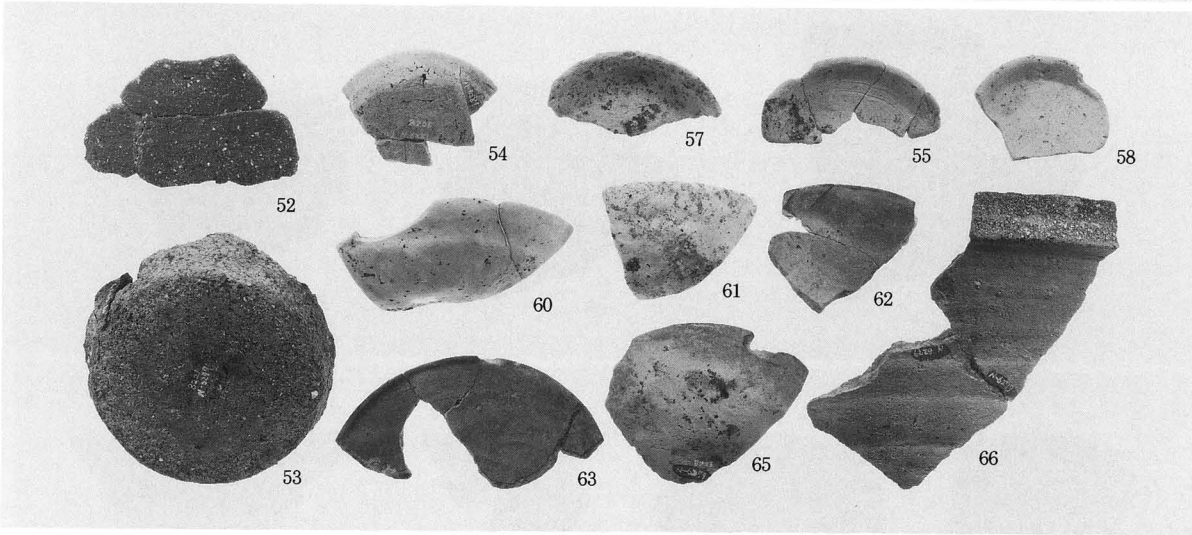
遺　物　図　版

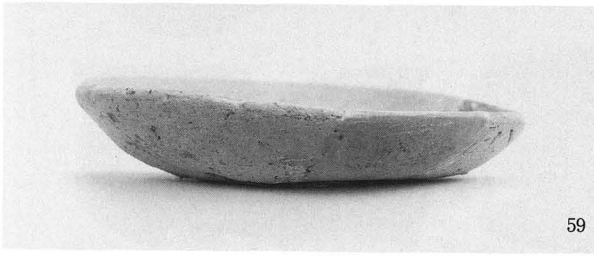


ＯＳＯ93－１(１)、ＯＳＯ93－２(２～８)、ＯＳＯ95－２(９～14・16～20)、ＯＳＯ98－１(21～35)

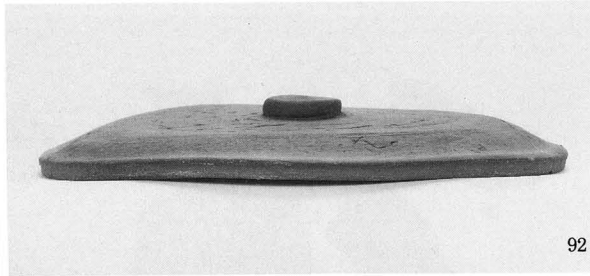


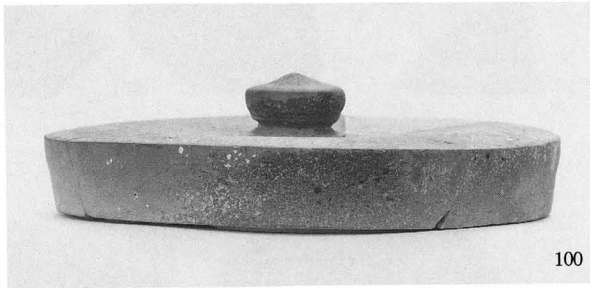


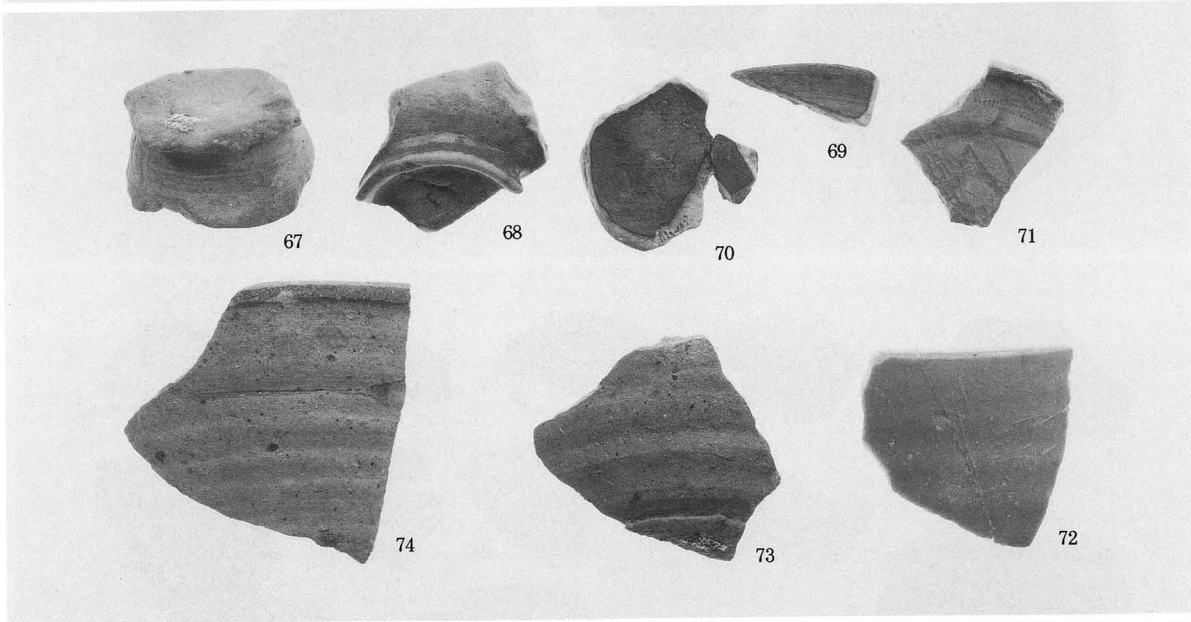


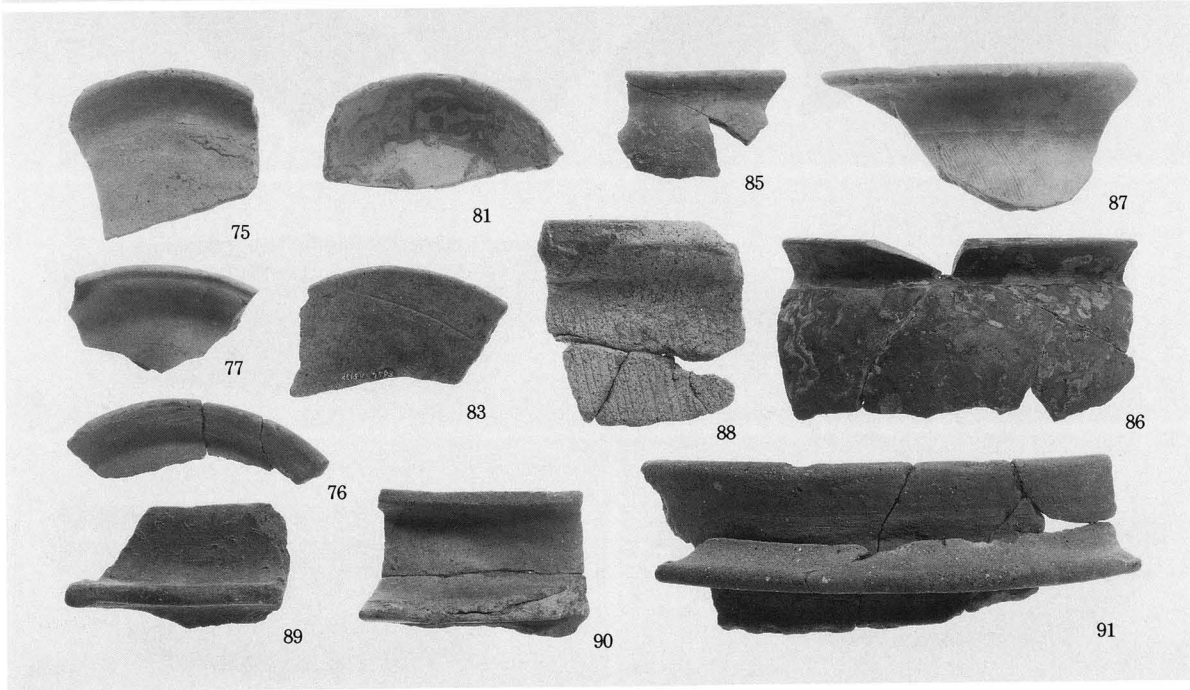


ＯＳＯ98－２(36～47)、ＫＹＲ98－１(48～51)、ＳＧＴ98－１(52～55・57～63・65・66)、ＴＫＯ95－５(79・80・84)

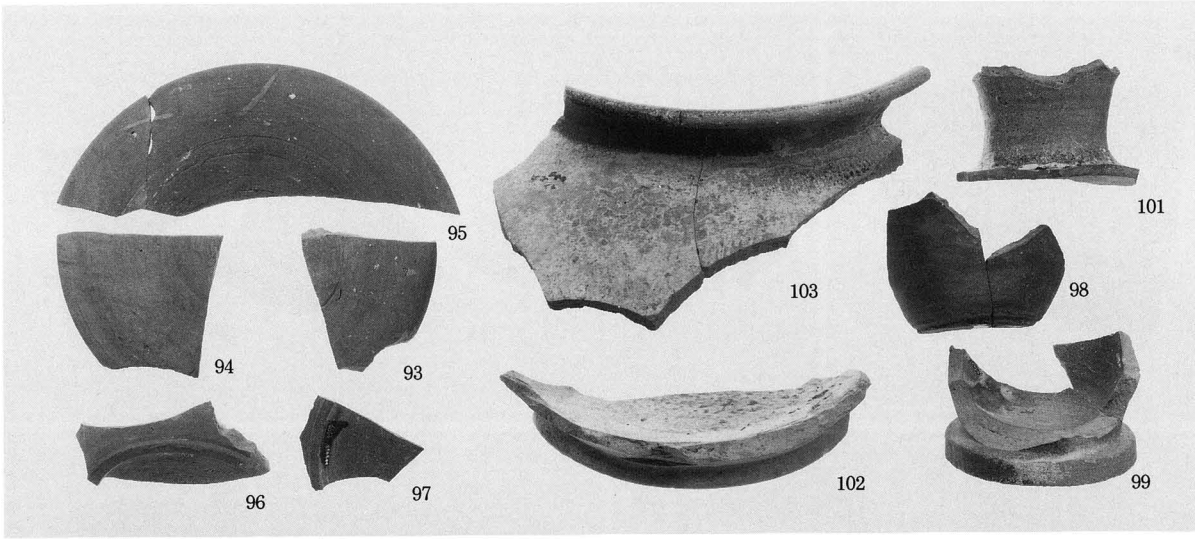


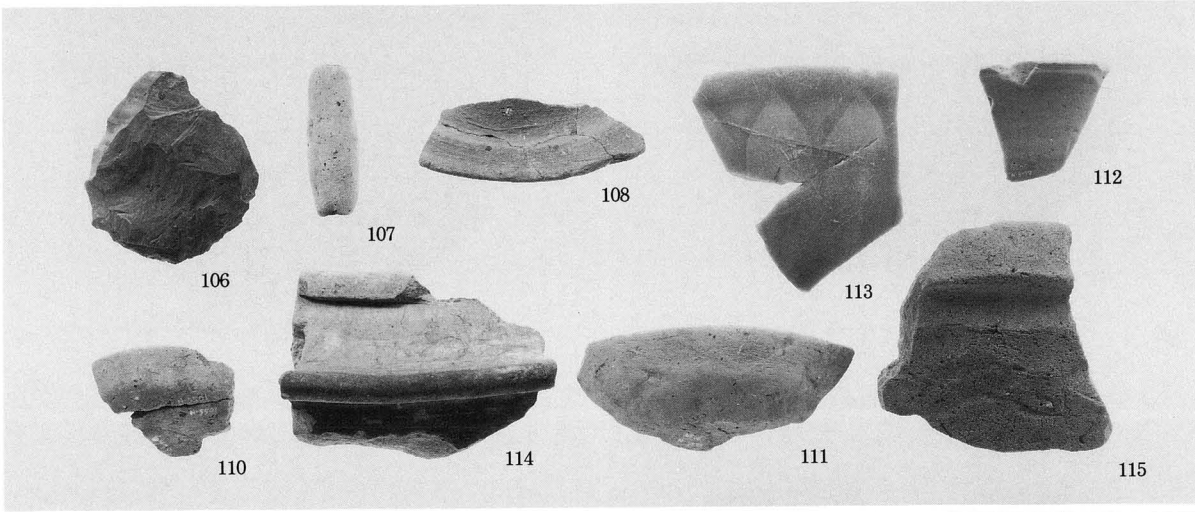


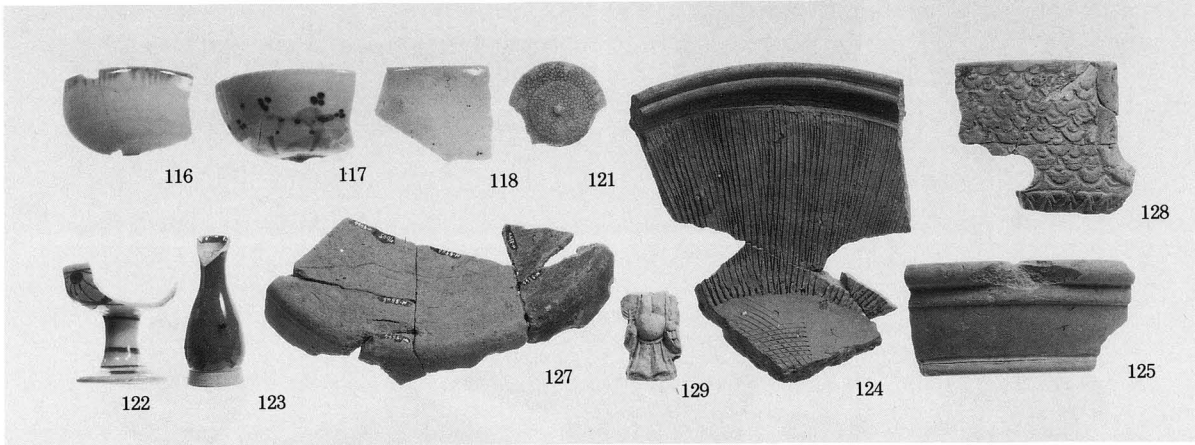


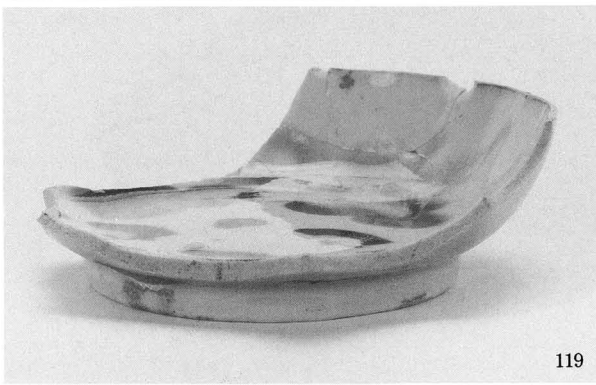


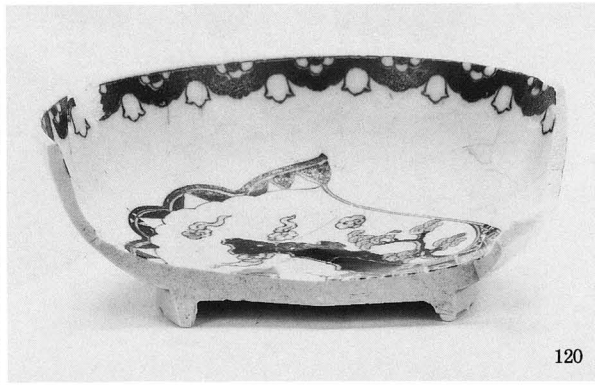
TKO95－5（67～78・81～83・85～92・100）



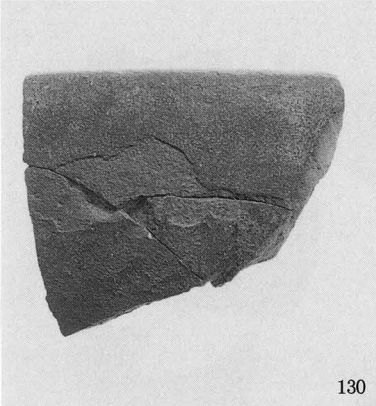


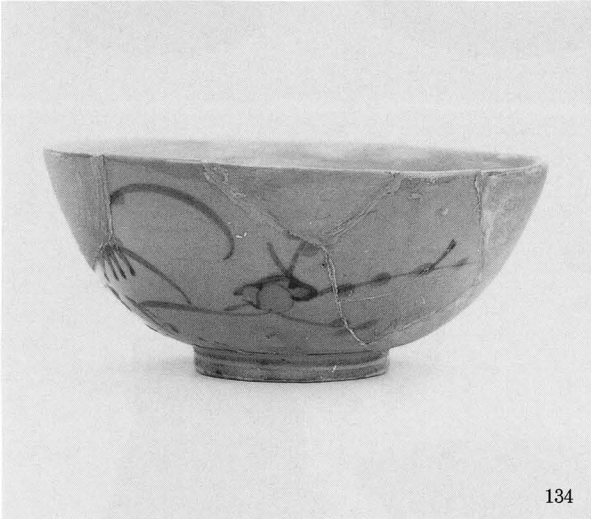


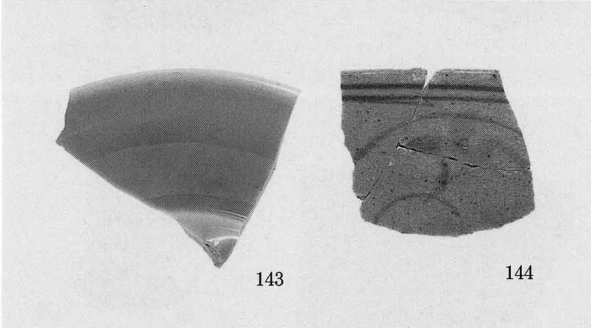


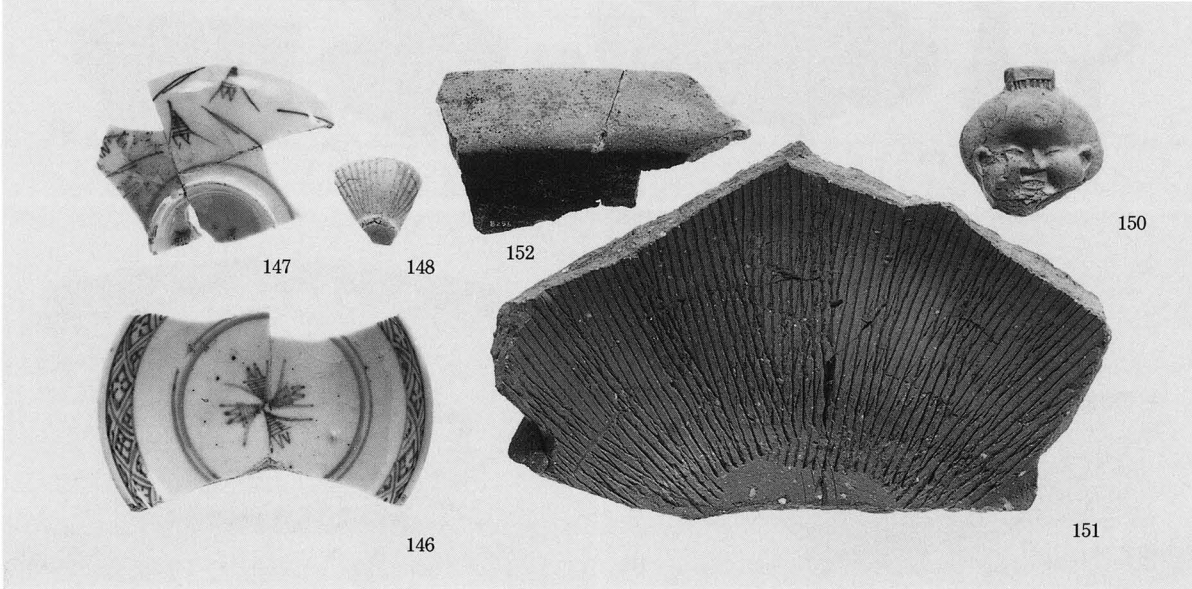


ＴＫＯ95－５(93～99・101～103)、ＴＫＯ96－１(106～108・110～115)、ＨＤＨ96－２(116～125・127～129)









HDH97－2 (130)、HDH97－3 (131～136)、HDH97－5 (143・144)、NDH98－1 (146～152)

西代藩陣屋跡（ＨＤＨ96－２）出土近世遺物

報告書抄録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	小塩遺跡　高野街道　惣持寺跡　高向遺跡　西代藩陣屋跡
巻次	XV
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第30輯
編著者名	尾谷雅彦　鳥羽正剛　太田宏明
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586－8501 大阪府河内長野市原町396－3　TEL 0721-53-1111
発行年月日	1999年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
小塩遺跡(93－1調査)	大阪府河内長野市小塩町	27216	府117	34°25′44″	135°34′10″	1993.10.13～10.21	8 ㎡	分譲住宅新築
(93－2調査)			河 88	34°25′45″	135°34′10″	1994.03.01～03.17	26.5㎡	分譲住宅新築
(95－1調査)				34°25′47″	135°34′06″	1996.01.16～01.25	4.5㎡	個人住宅新築
(95－2調査)				34°25′47″	135°34′07″	1996.01.16～01.25	47 ㎡	個人住宅新築
(98－1調査)				34°25′43″	135°34′07″	1998.06.15～07.06	215 ㎡	個人住宅新築
(98－2調査)				34°25′44″	135°34′05″	1998.09.28～11.16	5.6㎡	個人住宅浄化槽設置
高野街道(98－1調査)	大阪府河内長野市三日市町	27216	府 河132	34°26′10″	135°34′22″	1998.12.21	161 ㎡	個人住宅新築
惣持寺跡(98－1調査)	大阪府河内長野市高向	27216	府 48 河 45	34°26′06″	135°33′23″	1998.06.11～06.17	20 ㎡	個人住宅新築
高向遺跡(95－5調査)	大阪府河内長野市高向	27216	府 23	34°25′57″	135°32′58″	1995.02.28～03.08	69.5㎡	個人住宅新築
(96－1調査)			河 19	34°26′18″	135°33′15″	1996.05.15～05.23	290 ㎡	給油所建設
西代藩陣屋跡(96－1調査)	大阪府河内長野市西代町・本多町	27216	府 46 河 43	34°27′02″	135°34′06″	1996.06.03～06.28	4 ㎡	長野小学校エレベーター棟建設
(96－2調査)				34°26′59″	135°34′05″	1996.06.17～07.02	65 ㎡	長野小学校防火水槽設置
(97－2調査)				34°27′02″	135°34′02″	1997.05.15～05.16	4 ㎡	個人住宅新築
(97－3調査)				34°27′02″	135°34′14″	1997.08.01～08.15	120 ㎡	清教幼稚園改築
(97－4調査)				34°27′05″	135°34′11″	1997.07.25～08.05	12.7㎡	長野中学校構内整備工事
(97－5調査)				34°27′01″	135°34′04″	1997.11.26～12.29	185 ㎡	長野小学校プール機械室建設及び大規模改修工事
(98－1調査)				34°26′59″	135°34′05″	1998.07.21～07.28	30 ㎡	長野小学校廊下建設
(98－2調査)				34°27′07″	135°34′13″	1998.08.27～08.31	18 ㎡	長野中学校プール機械室建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小塩遺跡(93－1調査)	集落	縄文		叩き石	
(93－2調査)	〃	縄文・奈良	土坑	石鏃、土師器、須恵器	
(95－1調査)	〃	〃			
(95－2調査)	〃	〃	掘立柱建物、溝、土坑	石核、縄文土器	
(98－1調査)	〃	〃	土坑	縄文土器、土師器、須恵器	
(98－2調査)	〃	奈良	柱穴、土坑	須恵器、土師器	円面硯が出土
高野街道(98－1調査)	街道	中世	ピット	土師質土器、瓦器	
惣持寺跡(98－1調査)	社寺	鎌倉	溝、ピット	縄文土器、土師質土器、瓦器	
高向遺跡(95－5調査)	集落	奈良・中世		土師器、須恵器、瓦器	
(96－1調査)	〃	中世	ピット	石核、土錘、土師質土器、瓦器	
西代藩陣屋跡(96－1調査)	城館	江戸	溝、集石		
(96－2調査)	〃	〃	落ち込み、集石	陶磁器、泥人形	
(97－2調査)	〃	〃	溝		
(97－3調査)	〃	〃		陶磁器、瓦	
(97－4調査)	〃	〃			
(97－5調査)	〃	〃	柵列、土坑、ピット	陶磁器、瓦	
(98－1調査)	〃	〃	溝、土坑、ピット	陶磁器、土師質土器、面子	
(98－2調査)	〃	〃	土坑		

河内長野市文化財調査報告書第30輯
河内長野市埋蔵文化財調査報告書XV

1999年３月31日発行

発　行　大阪府河内長野市原町396－３
河内長野市教育委員会
0721－53－1111
印　刷　㈱中島弘文堂印刷所